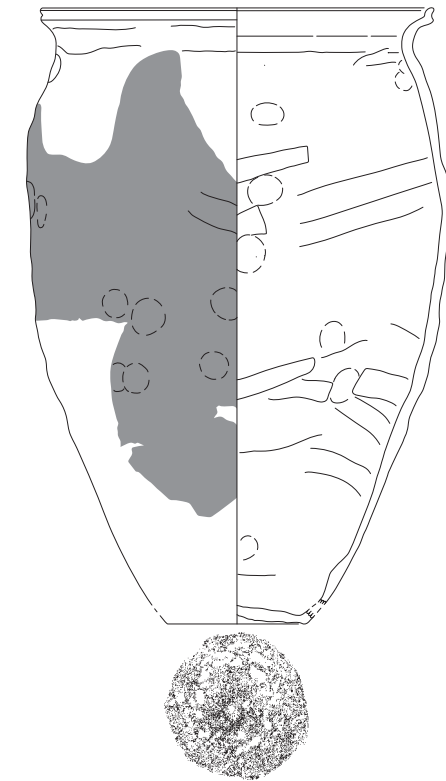


東前原遺跡

（第27地点第2次）

—東前第二区画道路6-35号外1路線道路改良及び
流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—



2020

水戸市教育委員会

東前原遺跡

(第 27 地点第 2 次)

—東前第二区画道路 6-35 号外 1 路線道路改良及び
流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2020

水 戸 市 教 育 委 員 会

ごあいさつ

水戸市の東部に位置する常澄地区には、本書で報告する東前原遺跡をはじめ小原遺跡、梶内遺跡、那賀郡家の別院とも考えられている大串遺跡などの魅力的な遺跡が存在しています。このことから本地区は、古くから連綿と人々の生活が営まれるとともに、古代律令体制下において重要な地域であったことが判明しつつあります。

一方、常澄地区の一画をなす東前町周辺では、近年の区画整理事業に伴い、周辺に位置する遺跡の様相が大きく変わりつつあり、そのため、本市教育委員会では、東前町周辺に今も眠っている遺跡の実像を後世に伝えるため、文化財保護法並びに関係法令に基づき遺跡の保護保存に努めているところです。

さて、このたび実施した発掘調査は、道路改良等の工事に伴う記録保存を目的とした発掘調査であります。広範囲に展開する古代の集落跡の一端のほか、縄文時代の土坑をはじめ、多くの遺構や遺物が検出され、大変貴重な成果を得ることができました。

ここに刊行の運びとなりました本書を契機として、かけがえのない貴重な文化財に対する愛着を深めていただくとともに、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたりまして多大なる御理解と御協力を賜りました関係各位に、心から感謝を申し上げます。

令和2年7月

水戸市教育委員会
教育長 志田 晴美

例 言

- 1 本書は、水戸市東前町地内における土地区画整理事業に伴い実施された東前原遺跡（第27地点第2次）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、水戸市教育委員会の指導のもと、株式会社東京航業研究所が行った。
- 3 調査の概要および調査体制は下記のとおりである。

所在地	茨城県水戸市東前町 1072-3 ほか
調査面積	122 m ²
調査期間	令和2年2月20日 から 令和2年3月11日 まで
調査指導	新垣 清貴（水戸市教育委員会）
調査担当者	根田 洋平（株式会社東京航業研究所）
調査参加者	[発掘調査] 井坂桂一・檜山博・栗原昌子・須賀川照美・野口守・松浦和子・ 和田美帆 [測量・空撮] 川下由光・奈治原亮年・鈴木智之・高田拓郎 [整理調査] 斉藤雅司・村井建三・竹内あい・大和修・田上達恵・持田つる子・ 羽鳥久子・稲毛あゆみ・東條高士・柳澤美樹
事務局	川口 武彦（埋蔵文化財センター所長） 米川 暢敬（埋蔵文化財センター主幹） 新垣 清貴（埋蔵文化財センター主幹） 廣松 滉一（埋蔵文化財センター文化財主事） 太田 勇陽（埋蔵文化財センター文化財主事） 丸山優香里（埋蔵文化財センター嘱託員） 松浦 史明（埋蔵文化財センター嘱託員） 外山 綾乃（埋蔵文化財センター嘱託員） 昆 志穂（埋蔵文化財センター嘱託員） 有田 洋子（埋蔵文化財センター嘱託員）

- 4 本書は、根田、新垣が分担して執筆し、新垣の助言・指導に基づき根田が編集した。文責はそれぞれの文末に明記した。
- 5 本書に掲載した写真の撮影は、現場写真は根田が、空撮写真は根田の指示の下で株式会社東京航業研究所スタッフが、遺物写真は根田の指示の下で村井（株式会社東京航業研究所）が行った。
- 6 出土遺物及び図面・写真などの記録類は、報告書刊行後一括して水戸市埋蔵文化財センターで保管している。
- 7 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々よりご教示を賜わった。

（敬称略・順不同）

平野 進一・津金澤吉茂・佐々木義則・村山 卓・野尻 義敬・渡邊理伊知・高橋 直樹

凡 例

- 1 本書で使用した遺構の略号は以下のとおりである。
S I：竪穴建物跡 S D：溝跡 S K：土坑 P：小穴
- 2 測量は国家標準直角座標Ⅸ系（世界測地系）に基づいた。挿図中の方位は座標北を示し、土層図及び断面図に記した数値は標高を示す。
- 3 遺構平面図及び断面図の縮尺は1/30, 1/40, 1/60を基本とし、各挿図中にスケールを明示した。
- 4 土層および遺物の色調表現は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）に準拠した。土層説明の中で、混入物の含有量は、1%以下を「極微量」、1～2%を「微量」、2～5%を「少量」、5～10%を「中量」、10%以上を「多量」とした。いずれも同書の「粒状構造」、「面積割合」を参照している。
- 5 掲載した出土遺物は全て各遺物観察表に記載し、図化し得た遺物の実測図は各挿図に、撮影した遺物の写真は各図版に示した。
- 6 遺物実測図は1/3の縮尺で掲載し、各図にスケールを明示した。
- 7 遺物写真の縮尺は、約1/3である。
- 8 遺物番号は、実測図、観察表、写真図版で共通の番号とした。また、遺構平面図・断面図・遺物点に付した遺物番号は、斜体字で示した。
- 9 遺物観察表の法量の表記は、寸法を「cm」で示し、（ ）内を復元値、〈 〉内を残存値とした。
- 10 出土遺物集計表の中で、接合したものは1点とし、同一個体でも接合できないものは各々を1点として集計した。また、重量の単位は「g」で示した。
- 11 表紙に使用した図は、SI01から出土した土師器の甕（第10図3・図版3-1-3）で、縮尺は1/4である。
- 12 引用・参考文献は一括して文末に記載した。
- 13 挿図中で使用した線種・トーンの表示は以下のとおりである。

凡例図

遺構		…焼土		…粘土		…硬化面範囲		…攪乱範囲
遺物		…煤		…黒色処理		…須恵器断面		

目 次

ごあいさつ

例言・凡例・目次

第1章 調査に至る経緯と調査経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3節 東前原遺跡における既往の調査	8
第3章 調査の成果	11
第1節 基本層序	11
第2節 検出した遺構と遺物	11
第4章 総 括	25
引用・参考文献	
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 調査区位置図	2	第9図 SI01 遺物出土状況図	15
第2図 周辺遺跡分布図	4	第10図 SI01 出土遺物(1)	16
第3図 東前原遺跡における 既往の調査地点	9	第11図 SI01 出土遺物(2)	17
第4図 基本層序	11	第12図 SD01 平・断面図	18
第5図 調査区全体図	12	第13図 SD01 出土遺物	19
第6図 SI01 平・断面図	13	第14図 土坑 平・断面図	20
第7図 SI01 竈 平・断面図	14	第15図 土坑出土遺物	20
第8図 SI01 小穴 平・断面図	14	第16図 小穴 平・断面図	22
		第17図 遺構外出土遺物	23

表目次

第 1 表	主要な周辺遺跡一覧	・ ・ ・ ・ ・	4・5	第 4 表	SD01 出土遺物観察表	・ ・ ・ ・ ・	19
第 2 表	東前原遺跡における 既往の調査地点一覧	・ ・ ・ ・ ・	10	第 5 表	土坑出土遺物観察表	・ ・ ・ ・ ・	20
第 3 表	SI01 出土遺物観察表	・ ・ ・ ・ ・	17	第 6 表	遺構外出土遺物観察表	・ ・ ・ ・ ・	23
				第 7 表	出土遺物集計表	・ ・ ・ ・ ・	24

図版目次

図版 1	1 - 1	調査区遠景 (南から)			
	1 - 2	調査区全景 (真上から)			
図版 2	2 - 1	SI01 完掘状況 (南から)			
	2 - 2	SI01 竈 (南西から)	2 - 3	SD01 完掘状況 (東から)	
	2 - 4	SK01 完掘状況 (南から)	2 - 5	TP1 東壁 (西から)	
図版 3	3 - 1	SI01 出土遺物 (1)			
図版 4	4 - 1	SI01 出土遺物 (2)	4 - 2	SD01 出土遺物	
	4 - 3	土坑出土遺物	4 - 4	遺構外出土遺物	

第1章 調査に至る経緯と調査経過

第1節 調査に至る経緯

令和元年8月29日付けで、土地区画整理事業に伴い、水戸市長 高橋 靖（都市計画部市街地整備課東前地区開発事務所扱。以下「事業課」と言う。）から、水戸市東前町1072番地から1080-1地内について水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて、「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」（東開第191号）の照会があった。

照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地「東前原遺跡」に該当していることから、市教委は事業計画に基づき、令和元年9月18日から19日にかけて試掘・確認調査を実施した（東前原遺跡第27地点第1次）。その結果、埋蔵文化財の分布を確認した。

今般の事業計画と調査成果を照らし合わせたところ、「茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱い基準」原則Ⅲ「恒久的建造物の設置により相当期間にわたり埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が破損したに等しい状態となる場合」に該当するものと判断された。

そのため市教委は、その保存のあり方について事業課と協議を進めたが、工事による埋蔵文化財への影響は不可避であるとの結論に達した。

従って今般の土木工事にあたっては、記録保存を目的とした本発掘調査が必要であるとし、事業課から提出のあった文化財保護法第94条第1項に基づく「埋蔵文化財発掘の通知について」を令和元年10月1日付け茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あて進達した（教埋第637号）。

この通知に対し、県教委教育長から令和元年10月7日付け文第2005号にて工事着手前に発掘調査を実施すること、また、調査の結果重要な遺構が確認された場合にはその保存について別途協議を要する旨の指示・勧告があった。

これを受けて、市教委は工事対象地のうち、埋蔵文化財が確認された面積122㎡を調査対象とし、事業課及び株式会社東京航業研究所と市教委の間で三者協定書を締結し、令和2年2月20日から令和2年3月11日の期間をもって本発掘調査を実施する事とした。

（新垣）

第2節 調査の方法と経過

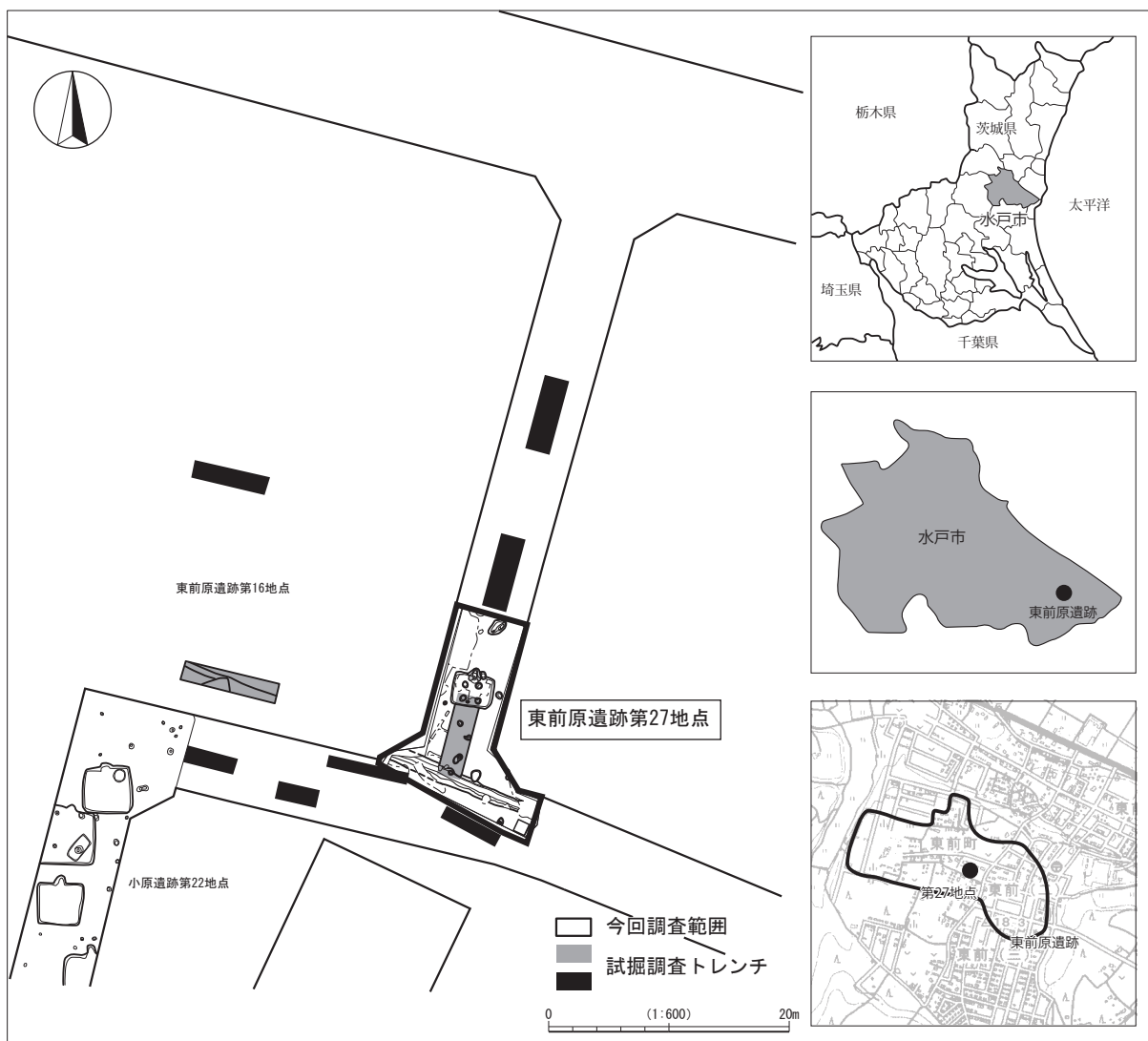
発掘調査範囲は市教委の試掘調査に基づき設定した。当該地点では区画整理事業に伴う造成および道路敷設工事が予定されており、試掘調査時に遺構が検出された箇所を中心に約122㎡を調査対象範囲とした(第1図)。調査実施に際し、安全上の理由から隣接地と間に適宜余剰帯を設けた。また埋設管が確認された箇所については、損傷しないように保護した。

現地調査は、令和2年2月20日から同3月11日にかけて実施した。重機による表土掘削の後、人力による遺構検出および精査を行い、デジタルカメラを用いた写真撮影、筆記による遺構実測図作成、光波測距機による遺構記録作成、ドローンによる空中写真撮影等を実施した。

表土掘削は2月21日に、精査及び記録作成は3月9日に完了し、3月11日に市教委による終了確認を受けて現地調査を終了した。

整理・報告書作成作業は、現地調査終了後速やかに着手し、令和2年7月中に完了した。

(根田)



第1図 調査区位置図

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

東前原遺跡は、茨城県水戸市東前町を中心に所在する。茨城県中央部に位置する水戸市は、北は那珂市および東茨城郡城里町に、南は東茨城郡茨城町に、東はひたちなか市および東茨城郡大洗町に、西は笠間市にそれぞれ隣接している。八溝山地の南端に連なる朝房山は、概ね笠間市との境を成して西へと勾配を上げ、北流する涸沼川が大洗町との東境を画している。市域の大部分は、那珂川右岸に展開する沖積低地と東茨城台地が占める。流通の面では、涸沼川を含む那珂川水系流域の水運と太平洋海運、南関東から東北地方に至る南北の陸上交通と、両毛地方に向かう東西の動線が各々接続し、必然的に水戸市を要衝の地たらしめている。

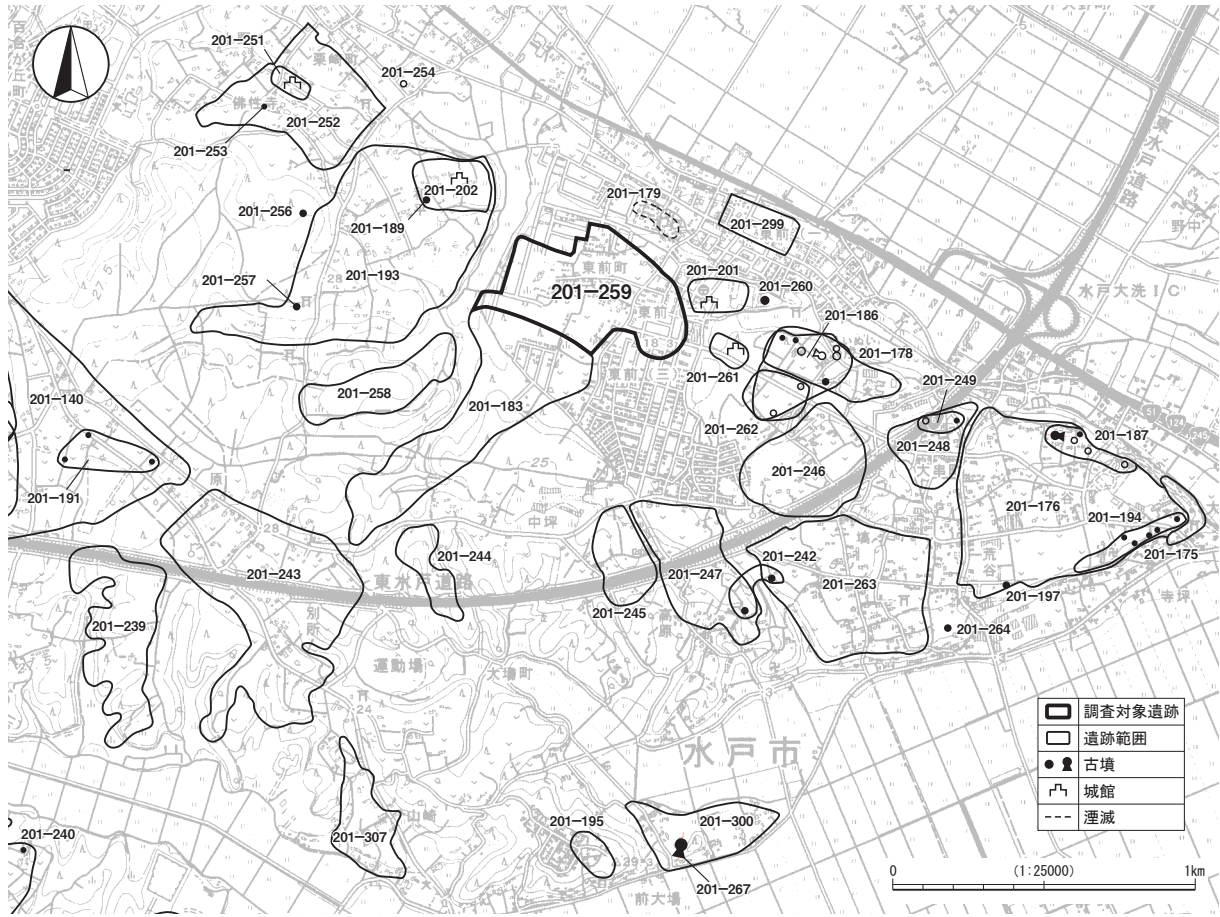
東前原遺跡は水戸市の南東端に位置する常澄地区に所属する。概ね北西—南東軸で、令和2年現在で、長軸約0.7 km、短軸約0.33 kmに及ぶ包蔵地範囲を占める（第2図）。台地上の遺跡で、標高はおおよそ17 mから30 mを測り、宅地と耕作地が主体を占めている。常澄地区は、那珂川と涸沼川によって開析された東茨城台地および縁辺の沖積低地の東端を占め、美田の広がる穀倉地帯として知られている。国道51号の整備と、それに並走する鹿島臨海鉄道大洗鹿島線、北関東医自動車道に接続する東水戸道路の開通などにより、交通のアクセスが良い。東前地区が市街化区域に指定された事による宅地化の動きが急速に進み、近年遺跡周辺の景観を大きく変化させている。

第2節 歴史的環境

東前原遺跡が立地する東茨城台地には、縄文時代から近世に至る数多くの遺跡が密集している。以下に、東前原遺跡周辺の遺跡群と歴史的環境を概観する。

先土器時代 先土器時代から縄文時代草創期にかけての資料が、森戸古墳群第12号墳（大六天古墳）の調査で報告されている。チャート・メノウ製の石器群の大部分は墳丘盛土や周隍からの出土だが、剥片が1点、周隍底面のロームから出土している。他には、水戸市百合が丘、下入野町地内等でガラス質黒色デイサイトや硬質頁岩製の神子柴型尖頭器が採集されている。

縄文時代 縄文時代の遺跡としては、前期貝塚として著名な大串貝塚が挙げられよう。『常陸國風土記』に記載が見られ、文献に記載されたものとしては世界最古の貝塚として、巨人伝説とともに知られている。一部が国指定史跡で、質・量ともに豊富な出土資料は、当該期の貝塚として県下随一と言える。中期から後期にかけては、下畑遺跡の加曽利E式、大木8b式期の竪穴建物跡や、複式炉を有する竪穴建物跡などが確認されている。



第2図 周辺遺跡分布図

第1表 主要な周辺遺跡一覧

番号	名称	所在地	種別	遺物	備考
201-141	雁沢遺跡	元石川町	集落跡	縄文土器, 弥生土器, 土師器 (古)	一部湮滅
201-175	大串貝塚	塩崎町	貝塚	縄文土器 (前・後), 石製品, 貝刃, 釣針, 刺突具	一部国指定
201-176	大串遺跡	塩崎町	集落跡	縄文土器 (前・後), 土師器 (古・奈・平), 須恵器 (奈・平), 布目瓦, 灰釉陶器	
201-178	向山遺跡	大串町	集落跡	土師器 (古)	
201-179	東前遺跡	東前町	集落跡		
201-183	小原遺跡	東前町	集落跡	弥生土器 (後), 土師器 (古), 須恵器 (奈・平)	
201-185	薄内遺跡	六反田町	集落跡	剥片 (先), 縄文土器 (早~後), 弥生土器, アメリカ式石鏃 (弥)	
201-186	金山塚古墳群	大串町	古墳群	形象埴輪	一部湮滅
201-187	大串古墳群	大串町	古墳群	五獣鏡, 銅環, 直刀, 鉄鏃, 壺鐙, 素環鏡板付轡	前方後円1 円1 (5)
201-193	上平遺跡	栗崎町	集落跡	土師器 (古・奈・平), 須恵器 (奈・平)	
201-194	長福寺古墳群	塩崎町	古墳群		
201-195	瀬沼台古墳群	大場町	古墳群		
201-201	椿山館跡	東前町	城館跡		

番号	名称	所在地	種別	遺物	備考
201-202	和平館跡	栗崎町	城館跡		
201-242	高原古墳群	大場町	古墳群		
201-243	小山遺跡	大場町	集落跡	縄文土器	
201-244	諏訪前遺跡	大場町	集落跡	土師器（古・奈・平）、須恵器（奈・平）	
201-245	沢幡遺跡	大場町	集落跡	土師器（古・奈・平）、須恵器（奈・平）、墨書土器、円面硯、紡錘車、砥石、鉄鏃、鉄鎌	
201-246	梶内遺跡	大串町	集落跡	土師器（古・奈・平）、須恵器（奈・平）、刀子、円面硯、墨書土器、陶器、煙管	
201-247	高原遺跡	大串町	集落跡	弥生土器、土師器・須恵器（奈・平）、土師質土器、煙管	
201-248	沢幡遺跡	大串町	集落跡	土師器（古・奈・平）、須恵器（奈・平）、墨書土器、円面硯、紡錘車、砥石、鉄鏃、鉄鎌	
201-247	高原遺跡	大串町	集落跡	弥生土器、土師器・須恵器（奈・平）、土師質土器、煙管	
201-248	北屋敷遺跡	大串町	集落跡	土師器（古・奈・平）、須恵器（奈・平）、瓦（奈・平）、陶器	
201-249	北屋敷古墳群	大串町	古墳群	形象埴輪、直刀、小刀、鉄鏃	一部湮滅
201-254	フジヤマ古墳	栗崎町	古墳		湮滅
201-258	打越遺跡	栗崎町	集落跡	土師器・須恵器（奈・平）	
201-260	住吉神社古墳	東前町	古墳		神社境内
201-261	大串原館跡	大串町	城館跡		
201-262	大串原遺跡	大串町	集落跡		
201-263	宮前遺跡	大串町	集落跡		
201-267	大場天神山古墳	大場町	古墳	三角縁神獣鏡	湮滅
201-299	上の下遺跡	東前町	包蔵地		

弥生時代 弥生時代については水戸市全域における傾向に変わらず、他時期に比してやや遺跡が少ないが、台地周辺の小原遺跡、高原遺跡、雁沢遺跡等で後期の遺物の採集や出土が報告されている。東前原遺跡第8地点では、後期の竪穴建物跡が発見されている。

古墳時代 古墳時代には、在地首長墓と目される大場天神山古墳・森戸古墳群・大串古墳群・北屋敷古墳群・長福寺古墳群・高原古墳群・涸沼台古墳群等が築造され、それらの周辺に集落が展開する様相を呈している。既に湮滅した大場天神山古墳からは、副葬品と推定される三角縁神獣鏡が不時発見されており、県内唯一の当該期の舶載鏡として県指定文化財となっている。前期から中期と想定される森戸古墳群第12号墳（大六天古墳）では底部穿孔壺や滑石製勾玉が出土している。大串古墳群中の大串稲荷山古墳由来と推定される五獣鏡・直刀・鉄鏃・壺鏡・鏡板付轡は、中期後半から後期の副葬品に比定されている。後期の北屋敷古墳群第2号墳からは、円筒埴輪・形象埴輪が多数出土しており、ほぼ全身が出土した武人埴輪は、「埴輪武装男子」の名称で市の文化財に指定されている。後期の前方後円墳である森戸古墳群第1号墳からは、円筒埴輪や形象埴輪が採集されてお

り、後期から終末期に比定される北屋敷古墳群第1号墳は、礫床切石積みの横穴式石室を持つ円墳で、埴輪を伴わず、直刀や鉄鏃、刀子等の副葬品が出土している。同時代の集落跡としては、大串遺跡・北屋敷遺跡・薄内遺跡・町付遺跡から多数の前期に比定される竪穴建物跡が検出されているが、中期の竪穴建物跡は北屋敷遺跡で2軒確認されているに過ぎない。後期には小仲根遺跡・元石川大谷原遺跡・梶内遺跡等で6世紀の竪穴建物跡が検出されており、集落が広く展開している様子が窺える。終末期の竪穴建物跡は、梶内遺跡と大串遺跡第7地点で数軒確認されたのみと検出例が少ない。これら検出例の増減は、土地利用と集落の展開に関する何らかの変動があった事を想定させる。

奈良・平安時代 奈良・平安時代になり律令制が施行されると、水戸市全域が常陸国那賀郡域内に組み込まれていく。那賀郡衙は水戸市渡里町の台渡里官衙遺跡群に比定され、小原遺跡周辺は『和名類聚抄』記載の那賀郡二十二郷の内の芳賀郷域内に相当すると考えられている。『常陸國風土記』には「大櫛岡」や「平津駅家」の記述が見出され、前者は芳賀郷内の大串貝塚周辺に、後者は同郡志万郷、現在の市内平戸周辺に比定される。当該期の小原遺跡の周辺には、大串遺跡・薄内遺跡・上平遺跡・打越遺跡・諏訪前遺跡・沢幡遺跡・梶内遺跡・高原遺跡・北屋敷遺跡・宮前遺跡等の多くの集落跡が認められる。大串遺跡第7地点では、総地業が施された礎石建物跡3棟や、束柱を持つ大型掘立柱建物跡等が検出されている。薬研堀状の大型区画溝に囲まれ、規格的に配置されたこれらの建物群は、前者が正倉、後者が正倉または穎屋と推定され、炭化米や「厨」銘墨書土器の出土と相俟って、官衙として捉えられ、郡衙正倉別院である可能性が指摘されている。梶内遺跡は7世紀から10世紀まで継続する集落跡で、「舎人」「長」「芳」銘墨書土器や、9点もの円面硯が出土しており、同様に官衙的色彩が強い。小原遺跡に隣接する東前原遺跡からは、竪穴建物跡と、集落を圍繞する可能性が考えられる大溝が検出されえており、同じく官衙関連集落である可能性が想定される。尚、「東前」は「遠厩」の転訛とされ、前述した「平津駅家」との関連が指摘されている。東前原遺跡自体は、主として6世紀から9世紀の集落跡として把握されている。以上のような遺跡群が集中する様相から、東前原遺跡周辺の台地上が古代芳賀郷の中核地域だったことが想定されている。

中世 中世の吉田郡常富郷は、古代の那賀郡芳賀郷に概ね合致する。旧那賀郡吉田郷を中心とした吉田郡は、常陸国三宮である式内社「吉田神社」（現水戸市宮内町に鎮座）の神郡として、10世紀前半には分立している。同社は以後も名神大社に列し、神階を上げるなど、神威を発揚していく。平安末期までには吉田社領吉田荘として立券され、領家は小槻氏となるが、在庁官人として勢力伸長を図る常陸大掾氏が權益を広げていく。大掾氏支流の石川高幹は、常富郷の地頭に補任され苗字の地とするが、後に得宗家領の代官となって在地支配を強めていったと推定される。以降は盛衰を経ながらも、石川氏が在地領主として常富郷の所領を保ち続けていく。南北朝の争乱から室町時代にかけて、水戸城を居城として大掾氏が周辺地域を支配していたが、応永29（1422）年に江戸氏に逐われ、勢力を失う。江戸氏の支配はその後佐竹氏が水戸城を奪取する天正18（1590）年まで続くことになる。

南北朝時代の暦応3（1340）年11月の公田注文によれば、郷内には大羽・栗崎・塩崎・六反田・石河・森戸・遠厩・大串・入野等の10ヵ村の名前が見られる。栗崎の佛性寺の本堂は八角堂であり、国の重要文化財に指定されている。梁には「立原伊豆守政幹（花押）」「天正十三年三月十一日」の墨書があり、本尊の金銅製大日如来の像背には「常州吉田郡栗崎卅一仏中尊」「文安五（1448）年戊辰正月二十二日」等の銘文が刻まれている。六反田の六地藏寺所蔵文書には、延文三（1358）年以前に地藏堂が所在していた事が記されている。いずれも寺伝では、開基は平安時代初期となっているが、中世における当地の様子を伝える文物と言えよう。当該期の遺跡としては、椿山館跡・和平館跡・大串原館跡の城館跡が所在する。土塁や堀などの施設が残存しているが、いずれも発掘調査は実施されていない。

近世 佐竹氏による常陸一国支配は慶長7（1602）年に終わりを迎え、同時に武田信吉が15万石の水戸城主として入部するが、同8年に卒去。替わって徳川頼宣が20万の大名として封ぜられる。同14年に徳川頼房が25万石で転封され、水戸藩が成立する。近世の常富郷は茨城郡に編入され、東前原遺跡周辺は東前村の村域となる。水戸城の外縁部に位置し、村域は東西約10町、南北約15町で、村高は寛永18（1641）年で335石1斗、元禄年間（1688～1704）で275石4斗余、天保年間（1830～1844）で203石4斗余と変動している。『水府志料』（文化4[1807]年）によれば戸数は30戸とされる。藩政初期の慶長15（1610）年に伊奈忠次によって開削された備前堀は、千波湖を発し、東前村を含む台地縁辺の耕地を潤して涸沼川に合流する。村内には付近10ヵ村の用水池である東前池や、秣場が在り、藩の鷹場や、藩営林である御立山が設定されていた。水戸から鹿島への往還道として、磯浜街道と大場原道が台地の縁辺を通過して村内を横断していた。当該期の遺跡としては、『新編常陸国誌』に記された伊豆屋敷跡が挙げられ、土塁・溝跡等の遺構が発掘調査により確認されている。

近・現代 廃藩置県により水戸県、後に茨城県に編入された東前村は、明治22（1889）年に東茨城郡稻荷村に、昭和30（1955）年に同郡常澄村に、平成4（1992）年に水戸市に合併した。近代以降も当該地周辺は純農地帯としての土地利用が主体であり、明治44（1911）年の統計では、水稻・陸稻・小麦・甘藷・蔬菜類の栽培が盛んな事、畜産では馬の飼育頭数が多い事が看取される。昭和40（1965）年の常澄村の統計では、耕地率が64%、農家戸数の割合が85%を占めている。同46年に東前地区が市街化区域に指定されて以来、田園都市としての整備が継続して進められ、現在に至っている。

第3節 東前原遺跡における既往の調査

東前原遺跡における調査地点は、計27地点を数える(第3図, 第2表)。大半は個人住宅建築等に伴う試掘調査だが、埋蔵文化財の濃密な分布が確認されている。本発掘調査のほとんどが土地区画整理事業に伴い実施されている。

第3地点第2次の調査では、竪穴建物跡11軒・掘立柱建物跡2棟・溝跡6条・土坑9基等を検出しており、土師器・須恵器・鉄製品等の遺物が出土した。奈良・平安時代を主体とする集落遺跡の一画と考えられる。規模や主軸方向の違いから、時期差のある竪穴建物の分布が認められる。第7地点では奈良・平安時代および中・近世の溝跡9条・井戸跡1基・土坑2基・貝層1箇所等が検出されており、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・銭貨等が出土している。貝層の規模は東西1.70m, 南北2.34m, 最大層厚は23cmを測る。オオタニシ・マシジミ等の淡水棲貝を主体とし、中・近世以降の堆積と推定されている。遺跡周辺の環境を考える上でも注目される。

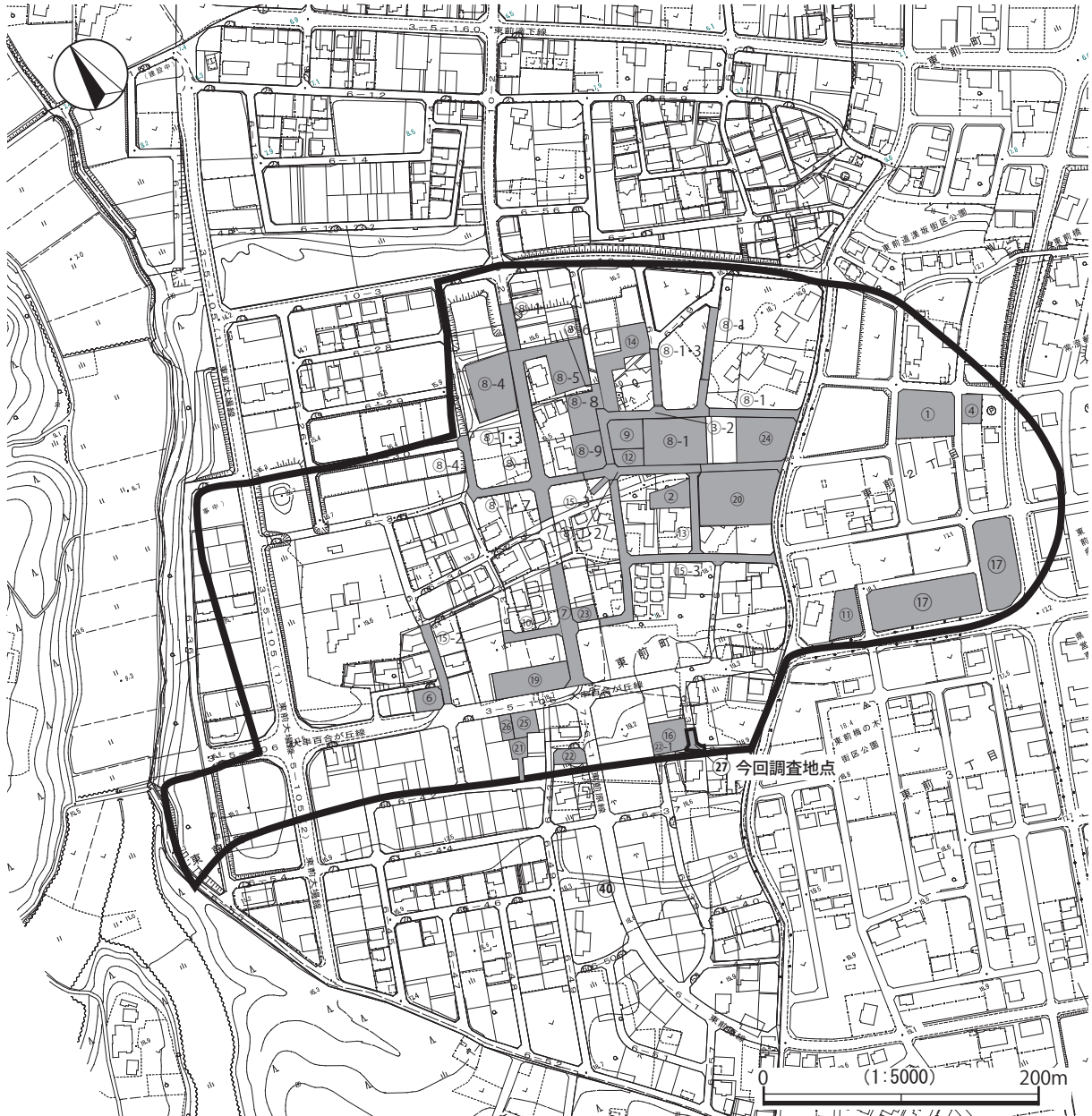
第8地点第2次の調査では、竪穴建物跡6軒・掘立柱建物跡5棟・溝跡2条・土坑9基等が検出され、土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器・煙管等の遺物が出土している。竪穴建物跡は奈良・平安時代を主体とし、一辺4m程の規模を測るものが大半だが、7m程の大型竪穴建物跡が1軒検出されている。また、中・近世の粘土貼りの土坑が検出されている事も注意される。

第8地点第3次の調査では、竪穴建物跡17軒・掘立柱建物跡3棟・溝跡2条・井戸跡1基・土坑13基等が検出され、弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦質土器・砥石・刀子等が出土している。弥生時代から奈良・平安時代にかけて断続的に営まれた集落跡の一画として捉えられ、検出した10世紀代の溝跡は、集落を囲繞する区画溝の可能性が指摘されている。

第8地点第8次の調査では、奈良・平安時代の竪穴建物跡17軒・掘立柱建物跡1棟や、中・近世の地下式坑6基・方形竪穴状遺構5基・井戸跡4基・土坑55基が検出され、土師器・須恵器・内耳土器・陶磁器・鉄製品・銭貨等が出土している。奈良・平安時代の集落跡と中・近世の地下式坑・土坑群が主体の複合遺跡で、特に後者は、中世以降の土地利用を考える上で注目される。なお、ここで方形竪穴状遺構として報告されている遺構は、大型竪穴の底面に柱穴状の小穴が構築されているものを指している。

第14地点第2次および第15地点第3次の調査では、竪穴建物跡7軒・溝跡2条・土坑60基等が検出され、縄文土器・土師器・須恵器・内耳土器・陶磁器等が出土している。奈良・平安時代の集落跡の一画と中・近世の土坑群が複合する遺跡で、第8地点2次と同様に粘土貼りが施された土坑群が検出されている。

第17地点第2次の調査では、竪穴建物跡43軒・掘立柱建物跡2棟・溝跡2条・井戸跡1基・陥穴3基・道路跡1条・土坑13基等が検出され、縄文土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・石製品・鉄製品等の遺物が出土している。縄文時代後期の陥穴や、6世紀後半から11世紀前半の各期の竪穴建物跡、近世に位置付けられる道路跡等の調査報告は、東前原遺跡の土地利用の変遷を見る上で極めて良好な資料を提示していると言えよう。クルル



第3図 東前原遺跡における既往の調査地点

鉤・石製基石・刀子・小札等の出土と併せ、当該調査地点を中核とした奈良・平安時代の集落の展開が予想される。

第19地点の調査では、溝跡7条、土坑4基、小穴44基、不明遺構1基が検出され、土師器・須恵器・磁器・土製品が出土している。2A区SD01は北西―南東軸の溝跡で、調査区外に延びている。区画に関わる施設と推定される。また、弥生時代後期と推定される土製紡錘車出土している。

以上、主要な発掘調査成果を概観した。発見された遺構群の在り様から、本遺跡は、当該地域における土地利用の動態を考えるうえで極めて重要な遺跡であると言える。

(根田)

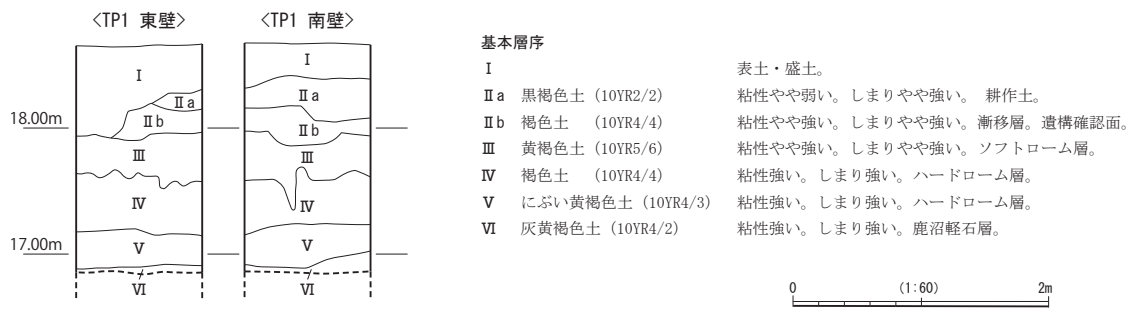
第2表 東前原遺跡における既往の調査地点一覧

地点名	回数	調査箇所	調査年月日	種別	調査原因	遺構	遺物	備考	
第1地点		東前町 2-57・60	H20/11/11	試	共同住宅建築	—	○	市教委 2011	
第2地点		東前第二土地区画 50 街区 8	H24/2/2	試	個人住宅建築	—	—		
第3地点	1	東前第二土地区画 6-17・18・20・21 号線 (部分)	H26/5/8～9	試	土地区画整理 事業	○	○	市教委 2015	
	2	東前第二土地区画 6-17・20・21 号線	H27/2/9～3/10	本		○	○		
	3	東前第二土地区画 6-18 号線 (部分)	H31/1/17	試		—	—		
第4地点		東前町 2-61・62	H26/7/30	試	個人住宅建築	—	○		
第5地点		東前第二土地区画整理 75 街区 15	H27/1/22	試	個人住宅建築	—	—		
第6地点		東前第二土地区画 33 街区 2	H27/4/28	試	個人住宅建築	○	○		
第7地点	1	東前第二土地区画 10-2 号線 (部分)	H27/5/8	試	土地区画整理 事業	○	○	市教委 2016	
	2		H28/3/28～4/21	本		○	○		
第8地点	1	東前第二土地区画 6-22・31・10-2 号線 (部分) / 同 43 街区 22・48 街区 3・4	H27/6/16～19	試	土地区画整理 事業	○	○	第8地点 2・3・9 次を含む	
	2	東前第二土地区画 6-22 線 (部分)	H27/12/22～H28/1/20	本		○	○		
	3	東前第二土地区画 10-2 号線 (部分)	H28/3/8～4/6	本		○	○		市教委 2016
	4	東前第二土地区画 42 街区 2・3・10・8・18・20 の一部 / 6-27 号線	H28/3/8～5/31	本		○	○		
	5	東前第二土地区画 43 街区 5・28・32・37・39・41 の一部 / 同街区 42・43・44・45	H28/5/25～7/7	本		○	○		
	6	東前第二土地区画 43 街区 5・28・32・36・37・38・39・40 の一部	H28/7/12	立		○	○		
	7	東前第二土地区画 6-22 号線 (部分)	H28/12/25～1/7	本		○	○		市教委 2017
	8	東前第二土地区画 43 街区 9 / 同 6-17 号線 (部分)	H29/6/7～7/26	本		○	○		市教委 2017
	9	東前第二土地区画 43 街区 22 (部分)	H29/7/20～8/26	本		農業倉庫建築	○		○
第9地点		東前第二土地区画 48 街区 6・7	H27/7/15	試	個人住宅建築	—	—		
第10地点	1	東前第二土地区画 6-33 号線 (部分)	H28/8/19	試	土地区画整理 事業	○	○	市教委 2017	
	2		H28/11/10～12/28	本		○	○		
第11地点		東前町 2-42-2～4	H28/9/2	試	宅地造成	○	○		
第12地点	1	東前第二土地区画 48 街区 8	H29/3/24	試	個人住宅建築	○	○		
	2		H29/5/11～6/2	本		○	○		
第13地点	1	東前第二土地区画 6-25 号線	H29/3/24	試	土地区画整理 事業	○	○		
	2		H29/8/18～30	本		○	○		
第14地点	1	東前第二土地区画 44 街区 2・3・10・12・同5の一部	H29/12/15～19	試	土地区画整理 事業	○	○	市教委 2019	
	2		H30/7/3～8/17	本		○	○		
第15地点	1	東前第二土地区画 6-23・24 号線	H29/12/15～21	試	土地区画整理 事業	○	○	市教委 2018	
	2		H30/6/27～9/19	本		○	○		
	3		東前第二土地区画 6-32 号線 (部分)	H30/7/27～9/19		本	○		○
第16地点		東前第二土地区画 53 街区 20	H29/12/21	試	個人住宅建築	○	○		
第17地点	1	東前町 2-35・36・37・38	H30/3/7～14	試	店舗建設	○	○	市教委 2019	
	2		H30/6/20～8/31	本	店舗建設	○	○		
第18地点		東前第二土地区画 64 街区 15	H30/4/24	試	個人住宅建築	—	○		
第19地点	1	東前第二土地区画 34 街区 7・10・11・15・18	H30/5/31	試	福祉施設建設	○	○		
	2		H31/1/25	試		○	○		
	3		H31/1/25	立		—	○		
	4		H31/2/20～21	本		○	○		
	5		R1/5/7～5/14	本		○	○		
第20地点	1	東前第二土地区画 46 街区 4	H30/8/2	試	個人住宅建築	○	○		
	2		H31/1/24	立		—	○		
第21地点		東前第二土地区画 64 街区 12	H31/1/17	試	個人住宅建築	—	○		
第22地点		東前第二土地区画 63 街区 1	H31/2/26	試	個人住宅建築	○	○		
第23地点		東前第二土地区画 51 街区 3	H31/4/12	試	個人住宅建築	—	—		
第24地点		東前町 1107-1 の一部 (47 街区 2 画地)	H31/4/25	試	個人住宅建築	○	○		
第25地点		東前町 1134-4 の一部 (64 街区 8 画地)	R1/8/2	試	個人住宅建築	○	○		
第26地点		東前第二土地区画 64 街区 8	R1/8/28	試	個人住宅建築	—	○		
第27地点	1	東前町 1072 - 3～1080-1 地内	R1/9/18	試	土地区画整理 事業	○	○	本報告書	
	2		R2/2/20～3/11	本		○	○		

第3章 調査の成果

第1節 基本層序

当該調査地点では、概ね地表面下 0.8 ~ 0.9 m（標高 17.9 ~ 18.0 m）で遺構確認面に達する。基本層序は調査区南東隅に設定したテストピット（T P 1）の壁断面で観察した。テストピットの掘削は、鹿沼軽石層が確認できる遺構確認面下 1.3 m（標高 16.8 m）まで実施した。遺構確認面は II b 層に該当する。原地形は概ね水平である。



第4図 基本層序

第2節 検出した遺構と遺物

地表面下 0.8 ~ 0.9 m（標高 17.9 ~ 18.0 m）において遺構確認を行い、竪穴建物跡 1 軒（SI01）、溝跡 1 条（SD01）、小穴 8 基（P01 ~ 08）の各遺構を検出した。SI01・SD01 は、市教委が実施した試掘調査の際に確認した遺構である。奈良・平安時代の集落跡の一部を成していると推定される。

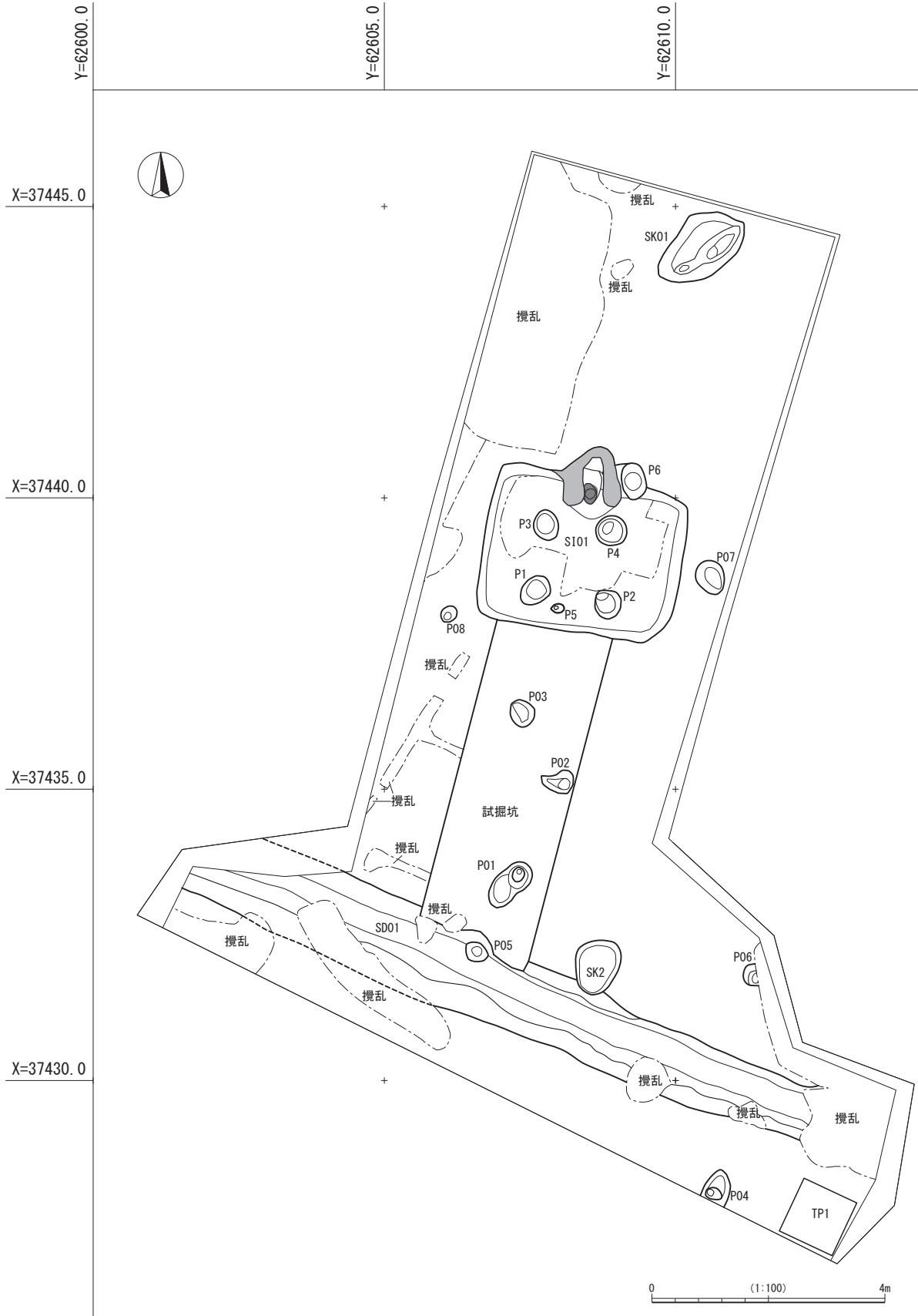
竪穴建物跡

SI01（第6～11図，第4表，図版2-1・2-2・3-1・4-1）

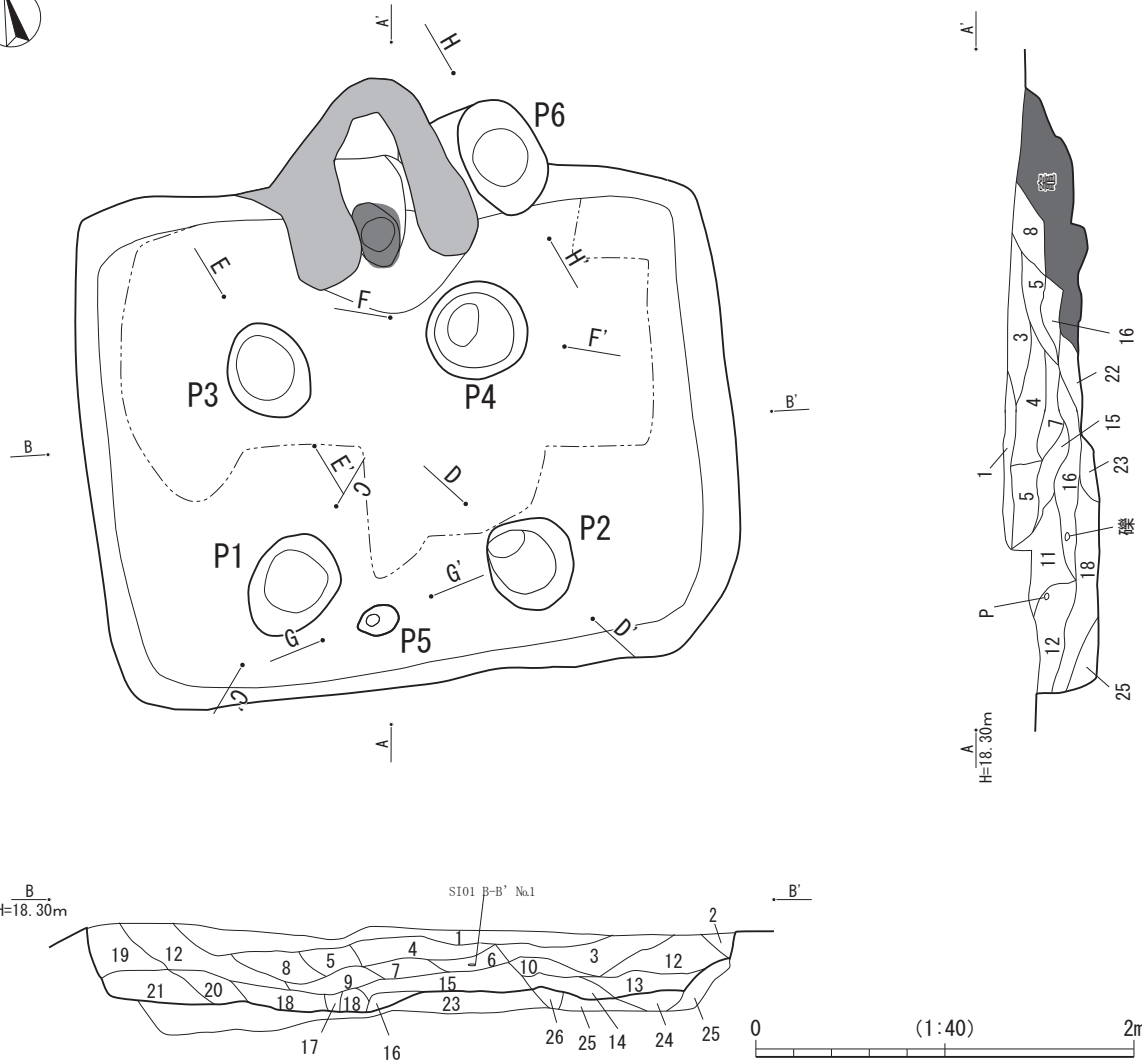
調査区中央部で検出した小規模な竪穴建物跡。主軸は N-9° -E を指す。平面形は隅丸方形で、断面形は概ね箱形を呈する。壁面の立ち上がりは急で、壁高は床面から検出面まで 0.36 m 以上を測り、床面の規模は、東西軸が 3.1 m，南北軸が 2.4 m，床面積は約 7.5 m² を測り、一部に貼り床が施されている。掘方は床面下 0.34 m まで掘り込まれている。また、西壁では約 0.3 m の幅を空けて掘方が掘削されている。

北壁中央に接して竈が設けられており、構築材の崩落が著しい。灰白色粘土を構築材として用いており、袖の芯材には土師器の甕が使用されている。小穴は P1 ~ 6 の 6 基が検出された。主柱穴は P1 ~ 4 と推定され、P5 は昇降施設の痕跡、P6 は貯蔵穴と推定される。

SI01 からは、土器・土師器・須恵器・石器等、計 110 点の遺物が出土しており、13 点



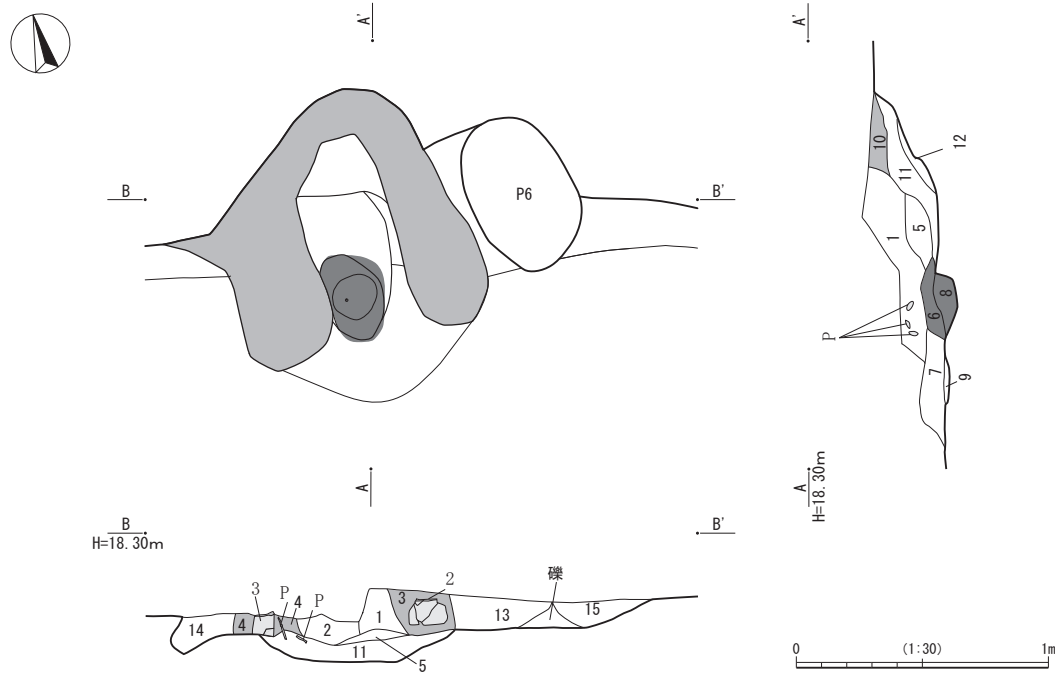
第 5 図 調査区全体図



SI01

- | | | |
|-----|-----------------|---|
| 1. | 黒褐色土 (10YR3/2) | しまり強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量、焼土 (φ1~5mm) を少量、炭化物 (φ1mm) を微量含む。 |
| 2. | 黒褐色土 (10YR3/2) | しまり強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量、炭化物 (φ1mm) を微量含む。 |
| 3. | 黒褐色土 (10YR3/2) | しまり強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量、焼土を微量含む。 |
| 4. | 黒褐色土 (10YR3/2) | しまり強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量、焼土 (φ1~5mm) を中量含む。 |
| 5. | 黒褐色土 (10YR3/2) | しまり強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量、焼土 (φ1mm) を少量含む。 |
| 6. | 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまり強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量、焼土 (φ1mm) を多量、炭化物を少量含む。 |
| 7. | 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまり強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を微量、焼土 (φ1~2mm) を中量、炭化物 (φ1mm) を微量含む。 |
| 8. | 黒褐色土 (10YR3/2) | しまり強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を中量、焼土 (φ1mm) を少量含む。 |
| 9. | 黒褐色土 (10YR2/3) | しまりやや強い、粘性やや弱い。ローム (φ1mm) を中量含む。 |
| 10. | 黒褐色土 (10YR2/2) | しまり強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を微量、炭化物 (φ1mm) を微量含む。 |
| 11. | 暗褐色土 (10YR3/3) | しまりやや強い、粘性やや強い。ローム (φ1~2mm) を多量含む。 |
| 12. | 暗褐色土 (10YR3/3) | しまりやや強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量含む。 |
| 13. | 黒褐色土 (10YR2/3) | しまり強い、粘性やや強い。ローム (φ1~50mm) を中量、炭化物 (φ1mm) を微量含む。 |
| 14. | 黒褐色土 (10YR3/2) | しまり強い、粘性やや弱い。ローム (φ1~2mm) を中量含む。 |
| 15. | 黒褐色土 (10YR2/2) | しまりやや強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量、焼土を微量含む。 |
| 16. | 黒褐色土 (10YR2/2) | しまり強い、粘性やや弱い。ローム (φ2~50mm) を多量含む。 |
| 17. | 黒褐色土 (10YR2/2) | しまり強い、粘性やや強い。ローム (φ1~2mm) を少量含む。 |
| 18. | 黒褐色土 (10YR2/2) | しまり非常に強い、粘性やや強い。ローム (φ1~20mm) を多量含む。 |
| 19. | 黒褐色土 (10YR2/2) | しまり強い、粘性やや弱い。ローム (φ1~20mm) を少量含む。 |
| 20. | 黒褐色土 (10YR2/2) | しまりやや強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を中量含む。 |
| 21. | 暗褐色土 (10YR3/3) | しまりやや強い、粘性やや強い。ローム (φ1~10mm) を多量、焼土 (φ5mm) を微量含む。 |
| 22. | 褐色土 (7.5YR4/3) | しまりやや強い、粘性やや弱い。粘土 (φ1mm) を中量含む。 |
| 23. | 黒褐色土 (7.5YR3/2) | しまり強い、粘性やや強い。焼土 (φ1mm) を少量、粘土 (φ10mm) を少量含む。 |
| 24. | 黒褐色土 (10YR3/2) | しまりやや強い、粘性やや強い。ローム (φ2~5mm) を多量、炭化物 (φ1mm) を微量含む。 |
| 25. | 黒褐色土 (10YR2/2) | しまり非常に強い、粘性やや強い。ローム (φ5~10mm) を多量含む。 |
| 26. | 黒褐色土 (10YR2/2) | しまりやや強い、粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量含む。 |

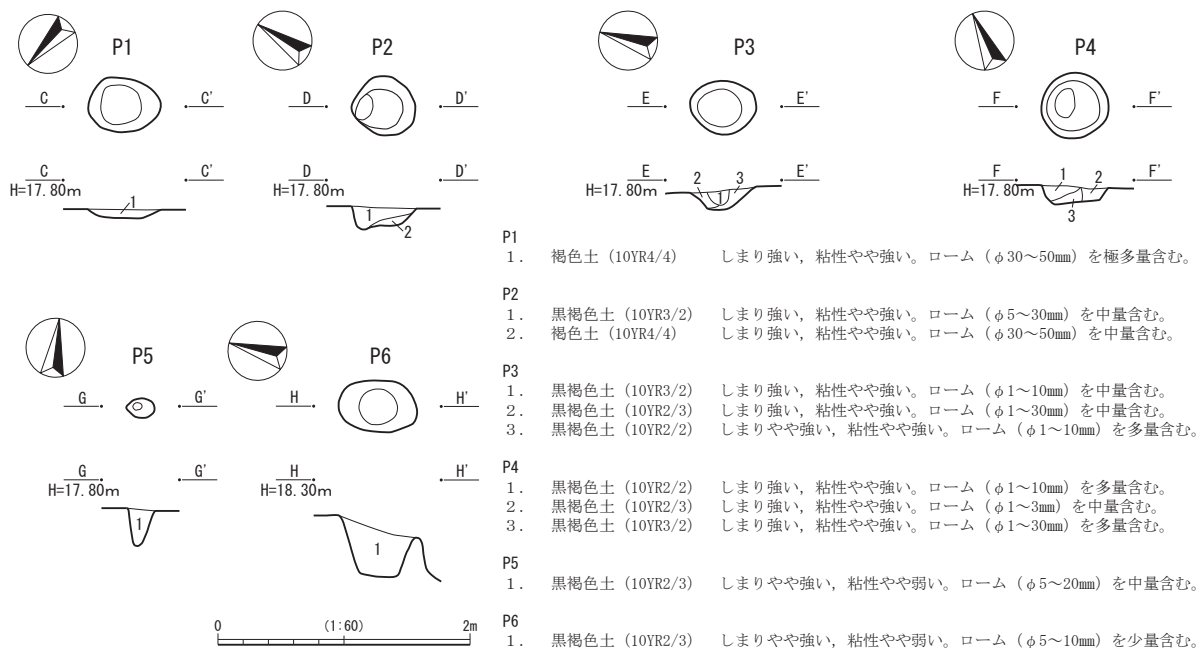
第6図 SI01平・断面図



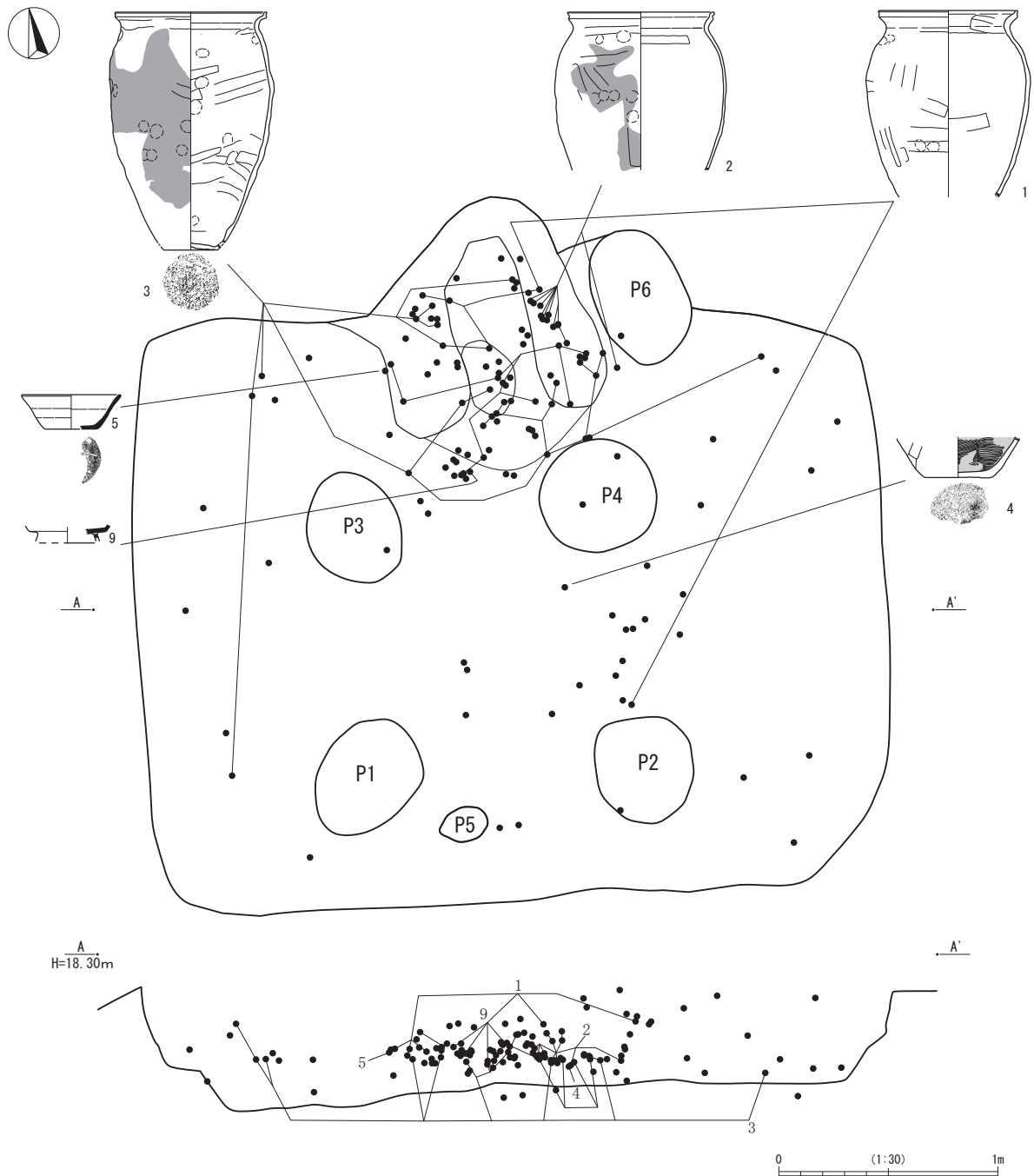
SI01竈

- | | |
|---------------------|--|
| 1. 黒褐色土 (10YR3/2) | しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量, 炭化物 (φ1mm) を微量含む。 |
| 2. 暗褐色土 (10YR3/3) | しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~3mm) を多量含む。 |
| 3. 黒褐色土 (10YR3/2) | しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~5mm) を少量, 灰白色粘土 (φ10~20mm) を中量含む。袖部。 |
| 4. 黒褐色土 (10YR3/2) | しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ1mm) を微量, 炭化物 (φ1mm) を微量, 灰白色粘土 (φ10~20mm) を中量含む。袖部。 |
| 5. 黒褐色土 (7.5YR2/2) | しまりやや強い, 粘性やや弱い。ローム (φ1mm) を微量含む。 |
| 6. 極暗褐色土 (7.5YR2/3) | しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量, 焼土 (φ1mm) を中量含む。燃焼部。 |
| 7. 黒褐色土 (7.5YR3/2) | しまり強い, 粘性やや弱い。ローム (φ1mm) を少量, 焼土 (φ1mm) を微量含む。 |
| 8. 暗褐色土 (10YR3/3) | しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ10~30mm) を多量, 焼土 (φ1mm) を少量含む。燃焼部。 |
| 9. 黒褐色土 (7.5YR3/2) | しまり強い, 粘性やや弱い。ローム (φ10~20mm) を少量, 焼土 (φ1~5mm) を中量, 炭化物 (φ1mm) を微量, 灰白色粘土 (φ1~5mm) を少量含む。 |
| 10. 黒褐色土 (10YR2/2) | しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ1mm) を微量, 炭化物 (φ1mm) を微量, 灰白色粘土 (φ10~20mm) を中量含む。袖部。 |
| 11. 黒褐色土 (7.5YR3/2) | しまり強い, 粘性やや弱い。ローム (φ1mm) を微量, 焼土 (φ1mm) を微量, 炭化物 (φ1mm) を微量, 灰白色粘土 (φ1~2mm) を少量含む。奥壁部。 |
| 12. 黒褐色土 (7.5YR3/2) | しまり強い, 粘性やや弱い。ローム (φ1~3mm) を中量, 焼土 (φ1~2mm) を少量, 炭化物 (φ1mm) を微量, 灰白色粘土 (φ1~5mm) を少量含む。奥壁部。 |
| 13. 黒褐色土 (10YR2/3) | しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量含む。 |
| 14. 黒褐色土 (10YR3/1) | しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量, 焼土 (φ1mm) を微量含む。 |
| 15. 黒褐色土 (10YR3/2) | しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ1mm) を少量, 炭化物 (φ1mm) を少量含む。 |

第7図 SI01竈 平・断面図

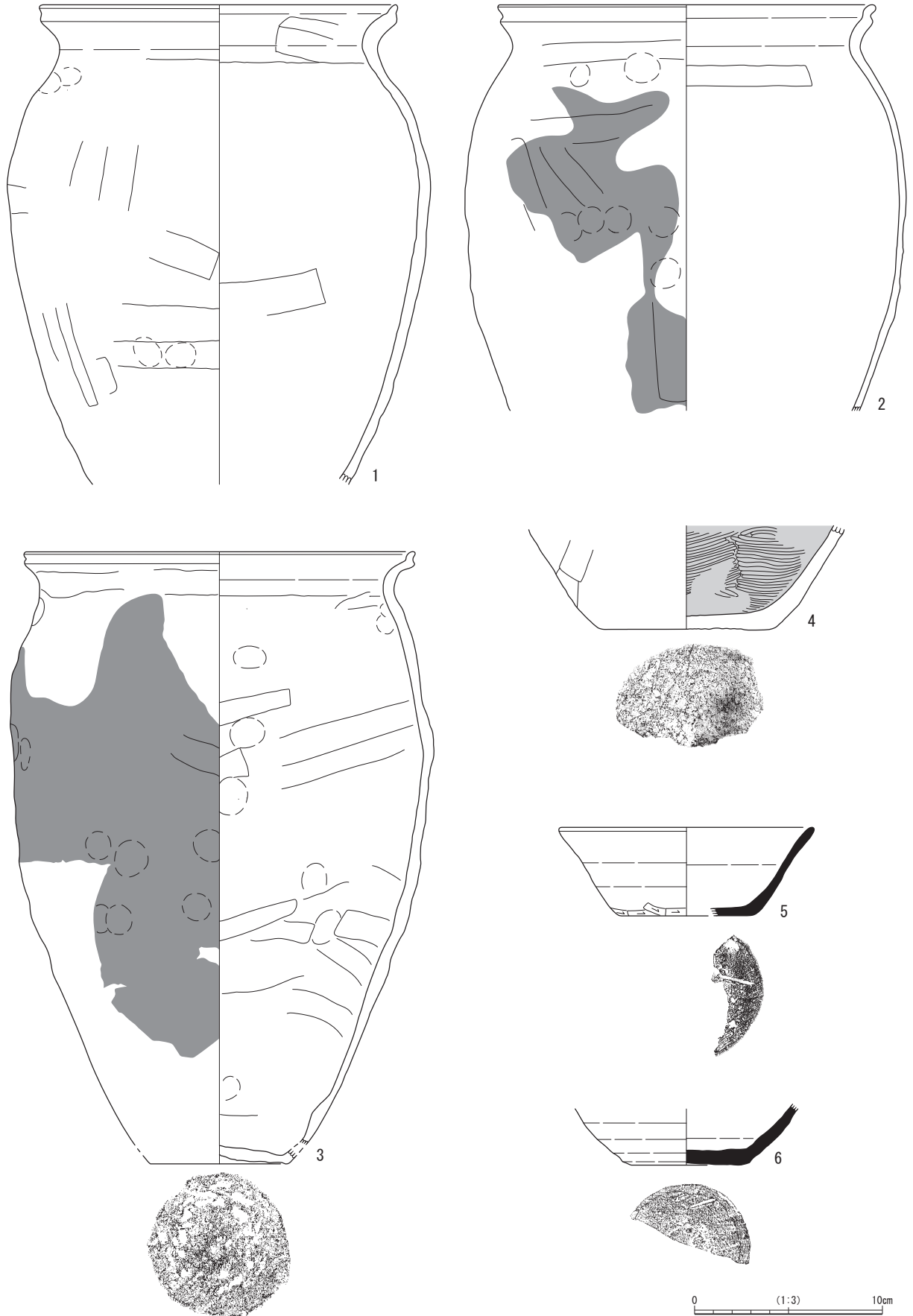


第8図 SI01小穴 平・断面図

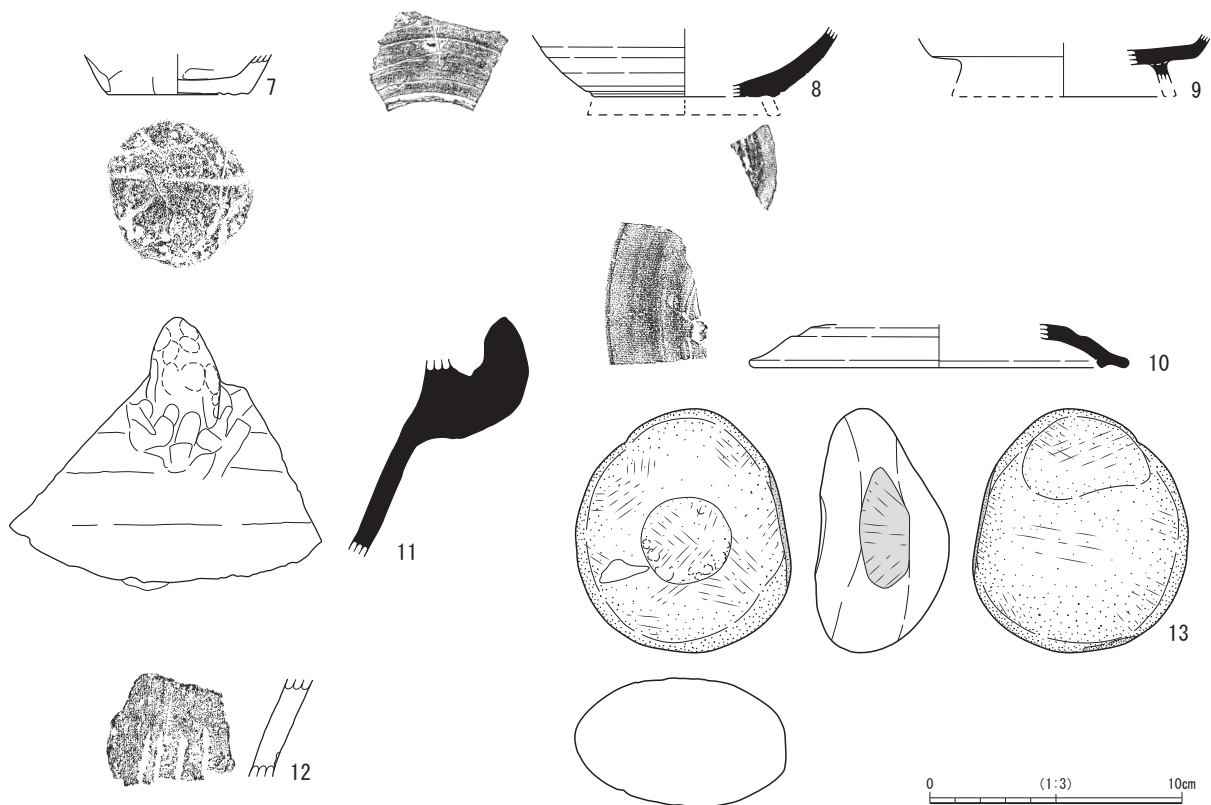


第9図 SI01 遺物出土状況図

を掲載・図化した。1～3は土師器の甕である。2と3はいずれも竈の芯材として使用されており、1は竈に据えられていたものと推定される。常総型甕である。4は土師器の鉢で、内面に黒色処理が施されている。5・6は須恵器の坏で、いずれもロクロ整形、底部回転ヘラケズリによる調整が施されている。7は土師器の甕で、底部に木葉痕が認められる。8～11は須恵器で、8・9は高台付坏、10は蓋で端部に自然釉が付着する。11は輪積み成形で、把手が貼り付けられた甕である。12は混入によると考えられる縄文土器の深鉢で、縦位の沈線文による文様帯が認められる。13は磨石もしくは凹石で、使用時の擦痕が認められる。大半の土師器・須恵器は9世紀第1四半期の所産と推定され、縄文土器は中期中葉の阿玉台Ⅱ式土器と考えられる。



第10图 SI01 出土遺物(1)



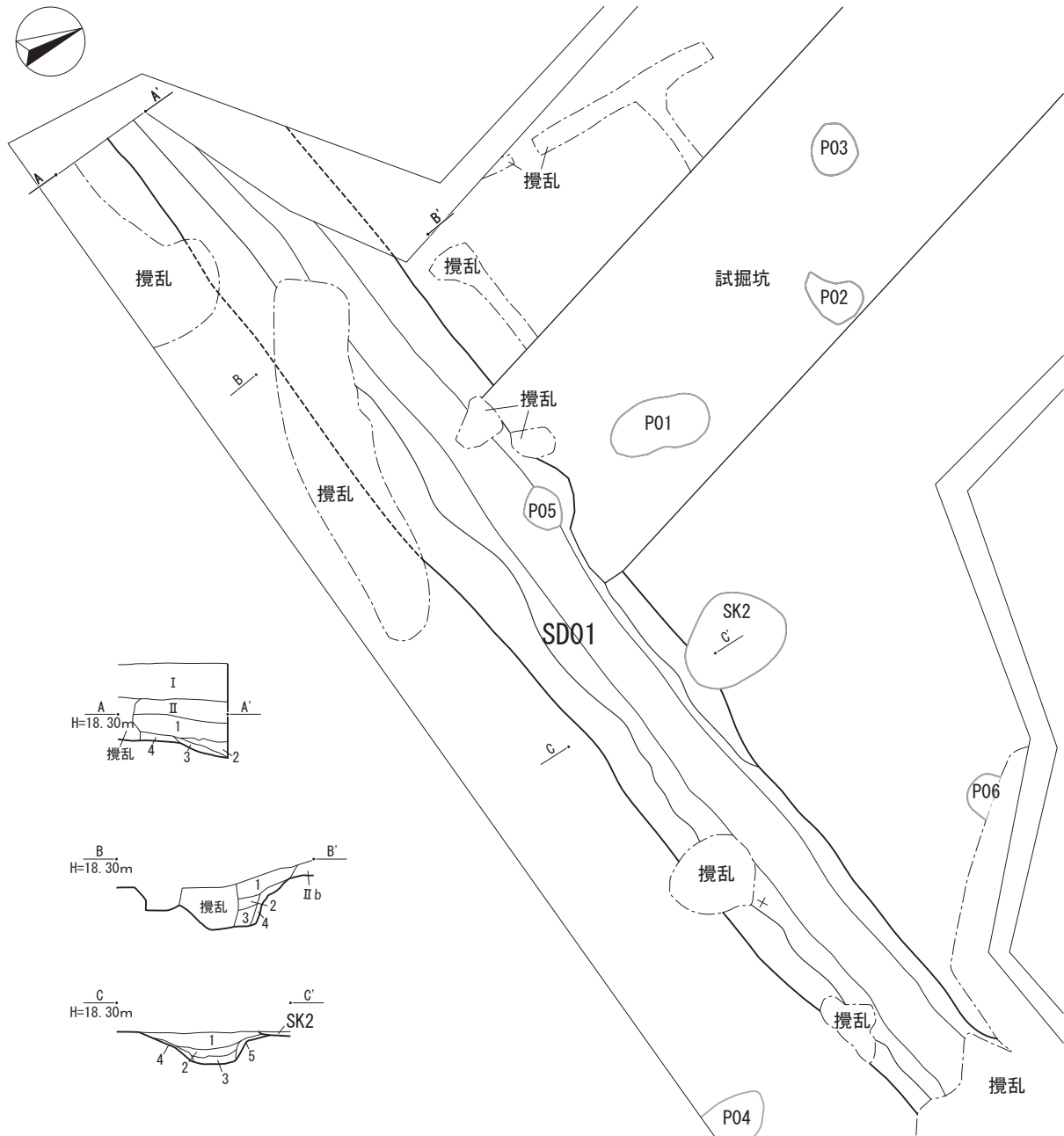
第11図 SI01 出土遺物(2)

第3表 SI01 出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 位置	種別	器種	部位	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
10-1 3-1-1	SI01	土師器	甗	口縁～ 胴部	50%	(18.6)	—	<25.6>	1081.1	輪積み成形。外面口縁横ナデ。 胴部中位指頭圧痕あり。内面輪 積み痕あり、剥落顕著。外面煤 付着。	銀雲母・黒 色粒・白色 粒・小礫	やや 不良	外面：橙色 (5YR6/6) 内面：橙色 (5YR6/6)	薄手、倒卵形、 常総型甗
10-2 3-1-2	SI01	土師器	甗	口縁～ 胴部	40%	(20.0)	—	<21.5>	439.0	輪積み成形。外面口縁横ナデ。 胴部中位指頭圧痕あり。胴下縦 位のナデ。内面剥落顕著。外面 煤付着。	金雲母・銀 雲母・黒色 粒・白色粒・ 小礫	良	外面：橙色 (5YR7/6) 内面：橙色 (2.5YR6/8)	薄手、倒卵形、 常総型甗
10-3 3-1-3	SI01	土師器	甗	口縁～ 底部	60%	(20.6)	3.2	<31.7>	1131.2	粘土紐巻き上げ成形。外面口縁 横ナデ。胴部指頭圧痕顕著。横 位のナデ。胴部下ナデ。内面横 位のナデ。外面煤多量付着。	金雲母・銀 雲母・黒色 粒・白色粒・ 小礫	良	外面：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内面：にぶい橙色 (7.5YR7/3)	薄手、倒卵形、 常総型甗
10-4 3-1-4	SI01	土師器	鉢	体部～ 底部	20%	—	(9.0)	<5.5>	140.0	外面剥落著しい。内面ミガキ後、 黒色処理。	黒色粒・白 色粒・赤色 粒	良	外面：橙色 (7.5YR7/6) 内面：黒色 (N2/)	
10-5 3-1-5	SI01	須恵器	坏	口縁～ 底部	20%	(13.2)	(7.0)	4.7	47.1	ロクロ整形。底部回転ヘラケズ リ後、ナデ。底面に描線あり。 底部に一部煤付着。	黒色粒・白 色粒・海綿 状骨針・小 礫	良好	内外面：黄灰色 (2.5Y6/1)	胴部下端ヘラ ケズリ痕跡
10-6 3-1-6	SI01	須恵器	坏	体部～ 底部	20%	—	(6.7)	<3.0>	42.3	ロクロ整形。底部回転ケズリ後、 ナデ。	黒色粒・白 色粒海綿状 骨針・小礫	良好	内外面：黄灰黄色 (2.5Y6/1)	
11-7 4-1-7	SI01	土師器	甗	底部	10% 未満	—	5.6	<1.6>	48.7	外面ナデ。底面木葉痕あり。内 面ナデ。指頭圧痕あり。	白色粒・金 雲母・小礫	良	外面：明赤褐色 (5YR5/6) 内面：橙色 (2.5YR6/8)	薄手、倒卵形、 常総型甗
11-8 4-1-8	SI01 上層	須恵器	高台 付坏	体部～ 底部	10%	—	(7.0)	<2.7>	23.2	ロクロ整形。底部回転ヘラケズ リ後、ナデ。体部に描線あり。	白色粒・海 綿状骨針・ 小礫	良好	外面：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 内面：灰色 (2.5Y5/1)	底部周縁の浅 い凹みは、高 台貼付痕跡か
11-9 4-1-9	SI01	須恵器	高台 付坏	底部	10%	—	—	<1.8>	18.9	ロクロ整形。貼付高台。	黒色粒・白 色粒海綿状 骨針・小礫	良好	内外面：暗灰黄色 (5Y5/1)	
11-10 4-1-10	SI01 下層	須恵器	蓋	体部～ 端部	10%	(14.8)	—	<1.7>	20	ロクロ整形。端部表面に自然釉 付着。	黒色粒・白 色粒海綿状 骨針・小礫	良好	外面：灰白色 (2.5Y7/1) 内面：灰色(5Y6/1)	
11-11 4-1-11	SI01 検出面	須恵器	甗	体部	10% 未満	—	—	<9.4>	136.5	輪積み成形後、内外面ロクロナ デ。把手貼付。内面指頭圧痕あ り。	黒色粒・白 色粒海綿状 骨針・小礫	良好	内外面：黄灰色 (2.5Y6/1)	木葉下窯跡群 産か
11-12 4-1-12	SI01 掘方	縄文土器	深鉢	胴部	10% 未満	—	—	<4.1>	27.0	輪積み成形。外面ナデ後。縦位 の沈線文による文様帯。内面ナ デ。指頭圧痕あり。	金雲母・黒 雲母・白色 粒・小礫	良	外面：橙色 (5YR6/6) 内面：にぶい赤褐 色(5YR5/4)	阿玉台Ⅱ土器
11-13 4-1-13	SI01 上層	石器	磨石・ 凹石	—	完形	長さ 9.6	幅 8.5	厚さ 5.3	539.5	表・裏面とも平滑で擦痕あり。 右側面中央に平滑面。表面中央 の凹みの敲打痕は、使用時の擦 痕に消されている。	—	—	—	頁岩製

溝跡

SD01 (第12・13図, 第4表, 図版2-3・4-2)



SD01

I. 表土・盛土。基本層序I層相当。

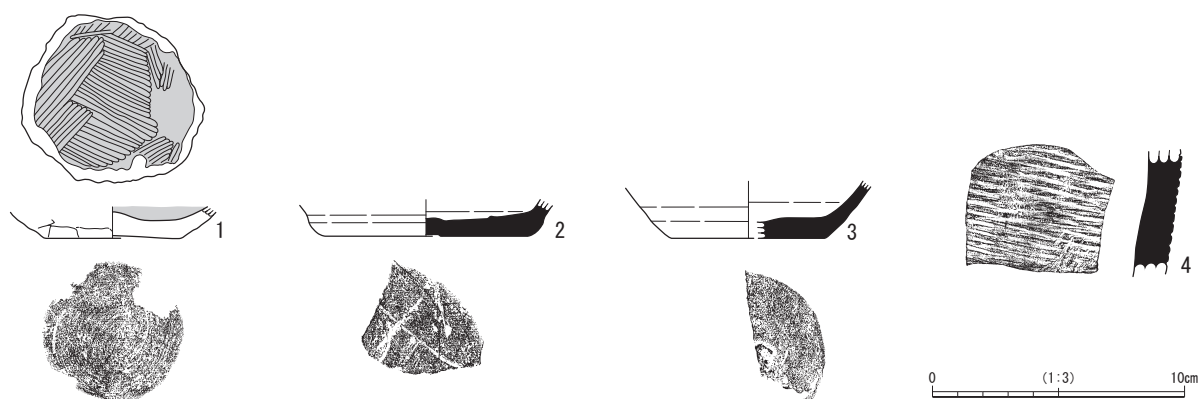
II. 耕作土。基本層序IIa層相当。

1. 黒褐色土 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや弱い。ローム ($\phi 1\sim 2\text{mm}$) を微量、焼土 ($\sim \phi 1\text{mm}$) を微量、シルト ($\phi 1\sim 5\text{mm}$) を少量含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) しまりやや強い、粘性やや弱い。ローム ($\phi 1\sim 2\text{mm}$) を少量含む。
3. 黒褐色土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い。ローム ($\phi 5\sim 10\text{mm}$) を多量含む。
4. 黒褐色土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い。ローム ($\phi 10\sim 20\text{mm}$) を極多量含む。
5. 黒褐色土 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや強い。ローム ($\phi 5\sim 20\text{mm}$) を多量含む。

第12図 SD01 平・断面図

調査区南端で検出した溝跡。SK02 に切られる。主軸は N-21° -E を指し、両端とも調査区外に延伸する。規模は、長さが 10.7 m 以上、幅 0.9 ~ 1.3 m、最大深度 0.6 m を測る。断面形は概ね逆台形を呈し、壁面は中段で少し外側に開く。底面には凹凸が認められる。堆積土には一部酸化が認められたが、砂などの混入物は認められなかった。僅かに東から西への下り勾配が認められる。土師器・須恵器等の遺物が出土している。時期および性格は不明だが、区画に係る施設の可能性が考えられる。

SD01 からは、土師器・須恵器・土製品等、計 36 点の遺物が出土しており、4 点を掲載・図化した。1 は土師器の坏で、内面に黒色処理が施されている。2 は須恵器の壺・瓶の底部、3 は須恵器の坏で、いずれもロクロ整形、底部回転ヘラケズリによる。4 は須恵器の甕の胴部で、外面に平行タタキ痕が認められる。出土遺物は、2 が 8 世紀第 1 四半期、それ以外は 9 世紀第 1 四半期の所産と推定される。



第 13 図 SD01 出土遺物

第 4 表 SD01 出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 位置	種別	器種	部位	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
13-1 4-2-1	SD01 検出面	土師器	坏	底部	20%	—	5.5	<1.2>	48.7	ロクロ整形、底部回転ヘラケズリ、底縁横位のヘラケズリ、内面黒色処理。	黒色粒・白色粒	良	外面：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内面：黒褐色 (10YR4/1)	
13-2 4-2-2	SD01 上層	須恵器	壺・瓶	底部	10% 未満	—	(8.0)	<1.5>	26.6	ロクロ整形、底面回転ヘラケズリ後ナデ。底面に線描あり、器面に損傷あり。	白色粒・海綿状骨針・小礫	良	外面：灰黄色 (2.5Y7/2) 内面：灰色 (2.5Y6/2)	全体的に白っぽい
13-3 4-2-3	SD01 下層	須恵器	坏	体部～ 底部	10%	—	(6.0)	<2.3>	26.1	ロクロ整形、底部回転ヘラケズリ後ナデ。	黒色粒・白色粒海綿状骨針・小礫	良好	内外面：暗灰黄色 (2.5Y5/2)	
13-4 4-2-4	SD01 上層	須恵器	甕	胴部	10% 未満	—	—	<5.2>	59.2	輪積み成形、外面横位の平行タタキ、内面ナデ。	黒色粒・白色粒海綿状骨針	良好	外面：黒色 (N2/) 内面：灰色 (2.5Y6/1)	

土坑

SK01 (第 14・15 図, 第 5 表, 図版 2-4・4-3)

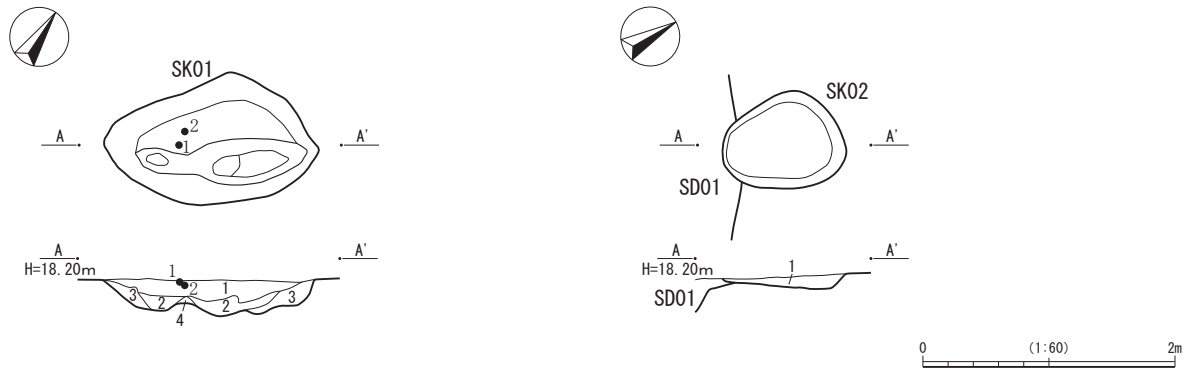
調査区北端で検出した土坑。平面形は北東-南西軸の楕円形で、断面形は概ね皿形を呈する。壁面の立ち上がりはやや急で、底面には凹凸が認められる。樹木痕の可能性が考えられる。

SK01 からは縄文土器が 3 点出土しているが、混入によるものと推測される。1 ~ 3 は深鉢で、内外面に煤が付着している。阿玉台Ⅱ式土器で、縄文時代中期中葉の所産と考えられる。

SK02 (第 14 図)

調査区南側, SD01 に北接する土坑。SD01 を切っている。平面形は概ね南北軸の楕円形で、断面形概ね皿形を呈する。壁面の立ち上がりは緩やかで、底面は凹凸が著しい。時期および性格は不明。

遺物の出土はなかった。



- SK01
1. 黒褐色土 (10YR2/3) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ10~30mm) を少量含む。
 2. 暗褐色土 (10YR3/4) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ10~30mm) を多量含む。
 3. 暗褐色土 (10YR3/4) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~5mm) を中量含む。
 4. 褐色土 (10YR4/6) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~5mm) を多量含む。

- SK02
1. 黒褐色土 (10YR2/2) しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ30~50mm) を中量含む。

第 14 図 土坑 平・断面図



第 15 図 土坑出土遺物

第 5 表 土坑出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 位置	種別	器種	部位	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
15-1 4-3-1	SK01- No.1	縄文土器	深鉢	胴部	10% 未満	—	—	<3.6>	13.4	輪積み成形, 外面横位のナデ後, 縦位の沈線文による文様帯, 内 面ナデ。外面煤付着。	金雲母・黒 雲母・白色 粒・小礫	良	外面：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内面：にぶい褐色 (7.5YR5/4)	阿玉台Ⅱ式土器
15-2 4-3-2	SK01- No.2	縄文土器	深鉢	胴部	10% 未満	—	—	<6.8>	46.4	輪積み成形, 外面横位のナデ後, 縦位の沈線文による文様帯, 内 面ナデ, 内外面指頭圧痕あり。 外面煤付着。	金雲母・黒 雲母・白色 粒・小礫	良	外面：にぶい褐色 (7.5YR5/3) 内面：にぶい赤褐 色 (5YR5/3)	阿玉台Ⅱ式土器
15-3 4-3-3	SK01	縄文土器	深鉢	胴部	10%	—	—	<7.1>	83.5	輪積み成形, 外面横位のナデ後, 縦位の沈線文による文様帯, 内 面ナデ, 内外面指頭圧痕あり。 内外面煤付着。	金雲母・黒 雲母・白色 粒・小礫	良	外面：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内面：にぶい褐色 (7.5YR5/4)	阿玉台Ⅱ式土器

小穴

P 01 (第 16 図)

調査区南側，SD01 の北隣で検出した小穴。平面形はくびれた楕円形で，断面形は皿形に近い。底面には窪みが認められる。時期は不明だが，形状から柵木・杭痕の可能性が考えられる。

遺物の出土はなかった。

P 02 (第 16 図)

調査区中央南側で検出した小穴。平面形は滴型に近く，断面形は皿形に近いが，壁面の立ち上がりが不揃いで，西側が緩やかに立ち上がっている。底面には窪みが認められる。時期は不明だが，形状から柵木・杭痕の可能性が考えられる。

遺物の出土はなかった。

P 03 (第 16 図)

調査区南側，SI01 の南隣で検出した小穴。平面形は楕円形で，断面形は皿形を呈する。壁面は緩やかに立ち上がり，底面には凹凸が認められる。時期および性格は不明。

遺物の出土はなかった。

P 04 (第 16 図)

調査区南東で検出した小穴。南側は調査区外に延びる。平面形は長楕円形と推測され，断面形は漏斗形を呈する。底面は概ね平滑で，柱穴・杭穴状の掘り込みが認められる。時期は不明だが，形状から柵木・杭痕の可能性が考えられる。

遺物の出土はなかった。

P 05 (第 16 図)

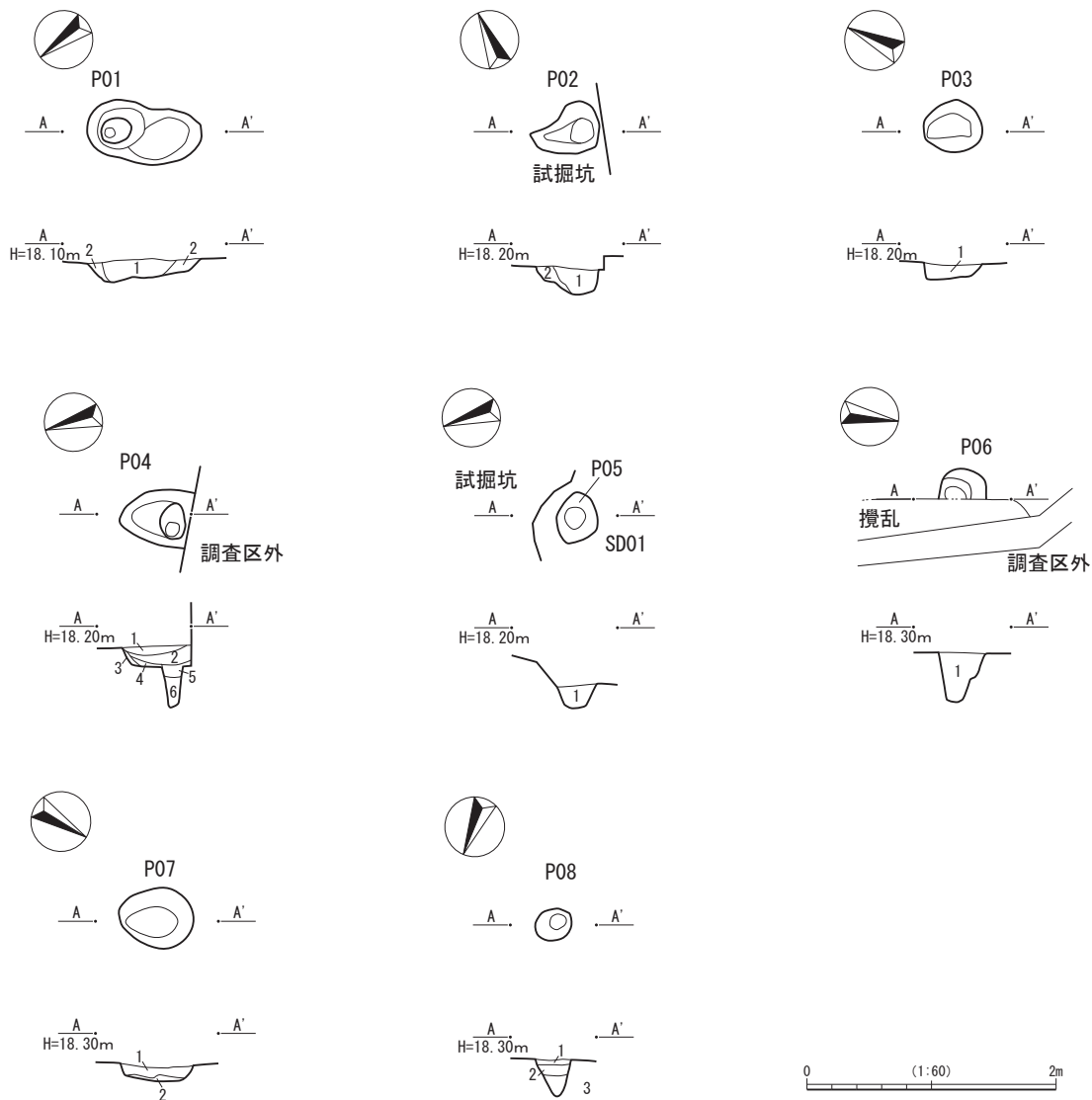
調査区南側中央部で検出した小穴。SD01 を切っている。平面形は楕円形で，断面形はU字形を呈する。壁面および底面には，鋤あるいは鍬状の工具痕が一部に認められる。時期底面には窪みが認められる。時期は不明だが，形状から柵木・杭痕の可能性が考えられる。

遺物の出土はなかった。

P 06 (第 16 図)

調査区南側東壁際で検出した小穴。平面形は楕円形で，断面形はU字形を呈する。底面には窪みが認められる。時期は不明だが，形状から柵木・杭痕の可能性が考えられる。

P 06 からは土師器の小片が 1 点出土しているが，図化するには至らなかった。



- P01**
1. 黒色土 (10YR2/1) しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~3mm) を中量含む。
 2. 暗褐色土 (10YR3/4) しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~2mm) を少量含む。
- P02**
1. 黒色土 (10YR2/1) しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~3mm) を中量含む。
 2. 暗褐色土 (10YR3/4) しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~2mm) を少量含む。
- P03**
1. 暗褐色土 (10YR3/3) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~5mm) を中量含む。
- P04**
1. 黒褐色土 (10YR2/2) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~5mm) を少量含む。
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~2mm) を少量含む。
 3. 黒褐色土 (10YR2/3) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ1~10mm) を多量含む。
 4. 黒褐色土 (10YR2/3) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ10~30mm) を多量含む。
 5. 黒褐色土 (10YR2/3) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ5~30mm) を少量含む。
 6. 黒褐色土 (10YR2/3) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ5~10mm) を中量含む。

- P05**
1. 黒褐色土 (10YR3/2) しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ5~20mm) を多量含む。
- P06**
1. 暗褐色土 (10YR3/3) しまり強い, 粘性やや強い。ローム (φ10~30mm) を少量含む。
- P07**
1. 黒褐色土 (10YR2/3) しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ5~10mm) を少量含む。
 2. 黒褐色土 (10YR2/3) しまりやや強い, 粘性やや強い。ローム (φ30~50mm) を少量含む。
- P08**
1. 黒褐色土 (10YR2/2) しまり強い, 粘性やや強い。
 2. 黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや強い, 粘性やや弱い。ローム (~φ1mm) を微量含む。
 3. 黒褐色土 (10YR2/3) しまりやや弱い, 粘性やや強い。ローム (φ5~10mm) を少量含む。

第16図 小穴 平・断面図

P 07 (第 16 図)

調査区中央東壁際，SI01 の東隣で検出した小穴。平面形は楕円形で，断面形は皿形に近い。底面には凹凸が認められる。時期は不明だが，形状から植痕の可能性が考えられる。柵木・杭痕の可能性が考えられる。

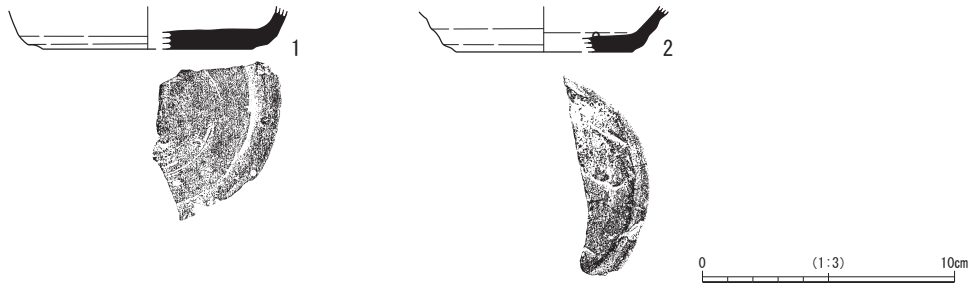
P 08 (第 16 図)

調査区中央西壁際，SI01 の西隣で検出した小穴。平面形は楕円形で，断面形はU字形を呈する。底面には凹凸が認められる。時期は不明だが，形状から柱穴・柵木・杭痕の可能性が考えられる。

遺物の出土はなかった。

遺構外出土遺物 (第 17 図, 第 6 表, 図版 4-4)

遺構外出土遺物は 20 点が出土しており，2 点を掲載・図化した。1・2 は須恵器の坏の底部で，いずれもロクロ整形，底部回転ヘラケズリによる調整が施されている。1 は 8 世紀第 1 四半期，2 は 9 世紀第 1 四半期の所産と推定される。(根田)



第 17 図 遺構外出土遺物

第 6 表 遺構外出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 位置	種別	器種	部位	残存率	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	特徴・手法	胎土	焼成	色調	備考
17-1 4-4-1	表土	須恵器	坏	底部	10%	—	(8.2)	<1.7>	35.2	ロクロ整形，底部回転ヘラケズリ。	黒色粒・白色粒海綿状骨針・小礫	良好	外面：灰黄色(7.5YR6/3) 内面：黄灰色(2.5Y6/1)	
17-2 4-4-2	攪乱	須恵器	坏	体部～底部	10%	—	(7.0)	<1.8>	28.2	ロクロ整形，底部回転ヘラケズリ後ナデ。	黒色粒・白色粒・小礫	良好	内外面：灰白色(2.5Y8/2)	全体的に白っぽい。還元か。

第7表 出土遺物集計表

重量単位:(g)

出土位置		SI01 竈		SI01		SD01		SK01		P6		遺構外		総計	
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
縄文土器	深鉢			2	42.2			3	143.3					5	185.5
土師器	坏	4	24.4	2	9.8	1	48.7			1	2.3	2	43.3	9	128.5
	高台付坏													0	0.0
	皿													0	0.0
	盤													0	0.0
	蓋											1	8.8	1	8.8
	甗	35	2955.3	24	204.0	16	137.7					6	89.1	81	3386.1
	甌													0	0.0
	鉢	1	140.0											1	140.0
須恵器	坏	10	142.3	21	156.8	9	60.0					1	28.2	42	410.5
	高坏													0	0.0
	高台付坏			2	42.1									1	18.9
	皿													0	0.0
	盤													0	0.0
	蓋			5	85.4	6	117.8							11	203.2
	甌			1	136.5									1	136.5
	甗					1	59.2							1	59.2
	壺・瓶類					1	26.6							1	26.6
瓦	(平瓦)													0	0.0
土製品	(支脚)													0	0.0
石器	(磨石)			1	539.5									1	539.5
	(剥片)													0	0.0
石製品	(紡錘車)													0	0.0
金属製品	(鉄滓)													0	0.0
その他	(焙烙)													0	0.0
	(陶磁器)					1	28.7							1	28.7
	(礫)			2	96.4	1	64.4							3	160.8
総計		50	3262.0	60	1312.7	36	543.1	3	143.3	1	2.3	10	169.4	160	5432.8

第4章 総括

東前原遺跡第27地点における第2次調査で検出した遺構は、竪穴建物跡1軒（SI01）、溝跡1条（SD01）、土坑2基（SK01・SK02）、小穴8基（P01～P08）である。このうち、SI01およびSD01は、市教委が第1次調査である試掘調査によってその存在を確認していた。以下に今次調査の概要を述べる。

SI01は北竈を有する竪穴建物跡で、遺存状態は良好である。遺構検出面での規模は、東西約3.5m×南北約3.2m、確認面から床面までの深さが約0.5mを測る小規模な竪穴建物跡で、長軸は概ね東西方向を指す。貼床は南側が極めて軟弱に施されていた。周溝は検出されなかった。床面から掘方まで0.2m程の比高差が認められた。また、掘方検出段階では、壁周に幅約20cm程のテラス状の段が認められた。検出された竈は、灰白色粘土と黒色土によって構築されている。混和材として小礫を微量含み、袖の芯材として土師器の甕を用いている。芯材として使用された物を含めて3個体の甕が出土している（第10図1～3）。いずれも常総型甕で、その形状からほぼ時期差がないと考えられるため、SI01の構築および機能年代は、9世紀第1四半期と推定される。8世紀第1四半期～第2四半期の所産と推定される須恵器の高台付坏（第11図9）と蓋（第11図10）以外は、概ね9世紀第1四半期の所産と推定されることから、年代観に齟齬はない。8世紀代に比定される遺物の混入は、当該期の遺構が近隣に存在することを示唆しているものと捉えられよう。

調査区南端で検出したSD01は、北西―南東方軸の溝跡で、検出長は約11.5m、幅は約1.2m、深さは約0.4mを測り、東端では攪乱を受けているが、両端とも調査区外に延伸している。断面形は、南側がやや緩やかで北側が垂直気味の逆「へ」の字形を呈し、底面には凹凸が僅かに認められる。溝跡の性格は不明だが、堆積土には、砂やグライ化土等の、水成堆積物は認められなかったため、用水には関わらない区画施設の可能性が考えられる。また、北側のSI01とは主軸が異なり、機能年代には差があるものと考えられる。出土遺物は、土師器・須恵器の坏、甕等だが、SI01出土遺物と類似しているため、溝跡に帰属しない遺物と推測される。従って、遺構の年代は不明である。

2基検出された土坑は、SK01は植栽痕、SK02は性格・年代とも不明の遺構で、SK01からは縄文時代中期中葉の阿玉台Ⅱ式土器と思われる土器が3点出土している。

8基検出された小穴のうち、P01・P02・P05は一直線に各芯心を貫くことができるため、柵跡を形成していた可能性が考えられる。芯心距離は、（P01）―1.6m―（P02）―1.55m―（P05）と、若干のズレが認められる。その他の小穴は、いずれも性格、年代ともに不明である。

遺構外出土遺物については、土師器・須恵器が出土しており、器種は坏、甕、蓋、壺が認められる。概ね平安時代の遺物が主体を成している。

今回の調査では、東前原遺跡の平安時代の集落跡を補完する良好な資料を得ることができたと思われる。（根田）

【引用・参考文献】

- 伊東重敏 1976 『大六天古墳（森戸古墳群第12号墳）』 常澄村教育委員会
- 中山信名 1979 『新編常陸国誌』 宮崎報恩会
- 井上義安 1985 『水戸市下畑遺跡』 水戸市教育委員会
- 常澄村史編さん委員会 1989 『常澄村史』 茨城県常澄村
- 梶山雅彦 1993 『一般国道6号東水戸道路改築工事内埋蔵文化財調査報告Ⅰ』 財団法人茨城県教育財団
- 井上義安 1994 『水戸市大串遺跡』 水戸市教育委員会
- 井上義安 1995 『水戸市北屋敷古墳』 水戸市教育委員会
- 佐々木義則 1995 「木葉下窯跡群産坏AⅠの変化について」『婆良岐考古』第17号 婆良岐考古同人会
- 櫻村宣行 1995 『一般国道6号東水戸道路改築工事内埋蔵文化財調査報告Ⅱ』 財団法人茨城県教育財団
- 井上義安・金子浩正 1996 『水戸市大串遺跡』 茨城県水戸市
- 佐々木義則 1997 「木葉下窯跡群の須恵器生産—奈良時代前半を中心に—」『婆良岐考古』第19号 婆良岐考古同人会
- 井上義安 1998 『伊豆屋敷跡確認調査報告書』 水戸市埋蔵文化財研究会
- 川口武彦 2005 「水戸市入野町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第27号 婆良岐考古同人会
- 日沖剛史・石丸 敦ほか 2006 『薄内遺跡（第1地点）』 水戸市教育委員会
- 川口武彦 2008 「水戸市百合丘町出土の神子柴型尖頭器」『婆良岐考古』第30号 婆良岐考古同人会
- 小川和博・大淵淳志ほか 2008 『大串遺跡（第7地点）』 水戸市教育委員会
- 水戸市教育委員会 2010 『水戸の指定文化財』
- 川口武彦・色川順子ほか 2011 『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』 水戸市教育委員会
- 岩崎岳彦・米川暢敬 2014 『河和田城跡（第22地点）』 水戸市教育委員会
- 米川暢敬・太田有里乃ほか 2015 『東前原遺跡（第3地点第2次）』 水戸市教育委員会
- 賀来孝代・太田有里乃ほか 2015 『小原遺跡（第3地点）』 水戸市教育委員会
- 米川暢敬・高野浩之 2016 『散野遺跡（第1地点）』 水戸市教育委員会
- 米川暢敬・高野浩之ほか 2016 『東前原遺跡（第7地点第2次）』 水戸市教育委員会
- 米川暢敬・丸山優香里ほか 2016 『東前原遺跡（第8地点第3次）』 水戸市教育委員会
- 米川暢敬・斎藤 洋ほか 2017 『小原遺跡（第16地点）』 水戸市教育委員会
- 米川暢敬・高野浩之ほか 2017 『東前原遺跡（第8地点第8次）』 水戸市教育委員会
- 水野順敏・米川暢敬ほか 2017 『東前原遺跡（第10地点）』 水戸市教育委員会
- 間宮正光・関口慶久ほか 2018 『遠台遺跡（第18地点4次）・八幡神社周辺古墳群（第1地点第3次）』 水戸市教育委員会
- 辻 弘和・新垣清貴ほか 2019 『東前原遺跡（第14地点第2次・第15地点第3次）』 水戸市教育委員会
- 新垣清貴・土生朗治ほか 2020 『東前原遺跡（第17地点第2次）』 水戸市教育委員会

写 真 图 版



1-1 調査区遠景（南から）



1-2 調査区全景（真上から）

図版 2



2-1 SI01 完掘状況 (南から)



2-2 SI01 竈 (南西から)



2-3 SD01 完掘状況 (東から)



2-4 SK01 完掘状況 (南から)

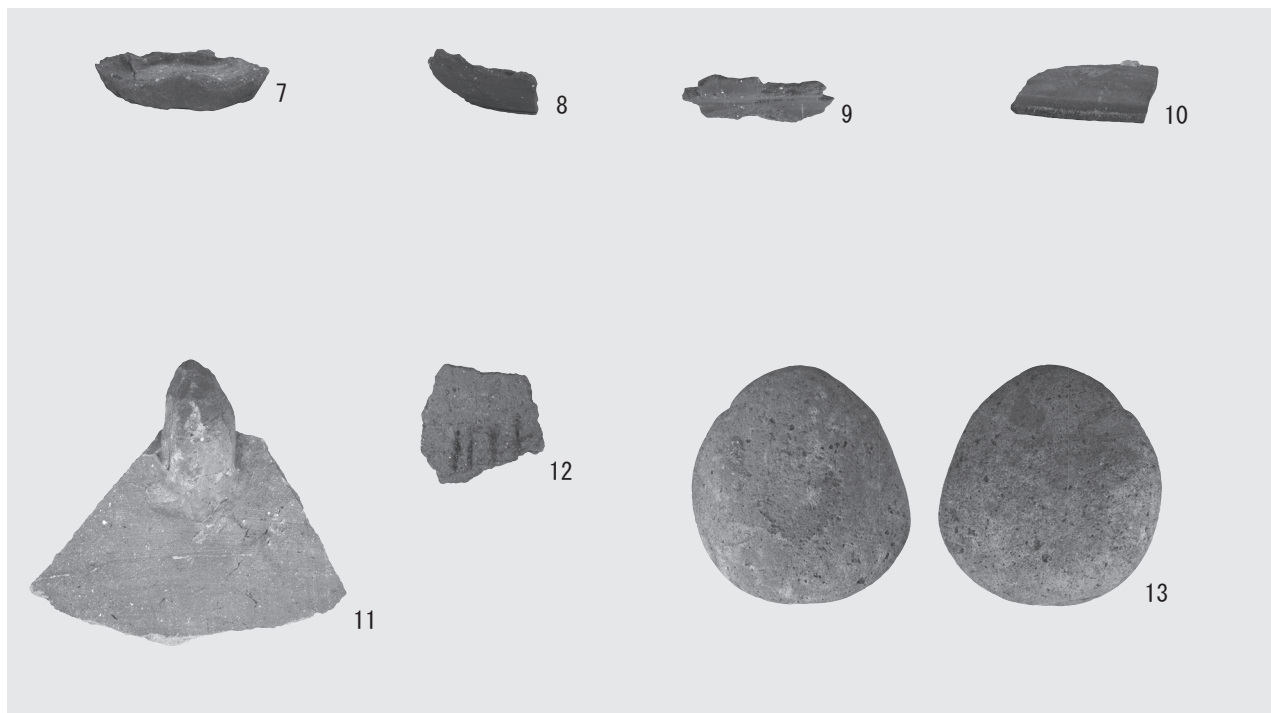


2-5 TP1 東壁 (西から)

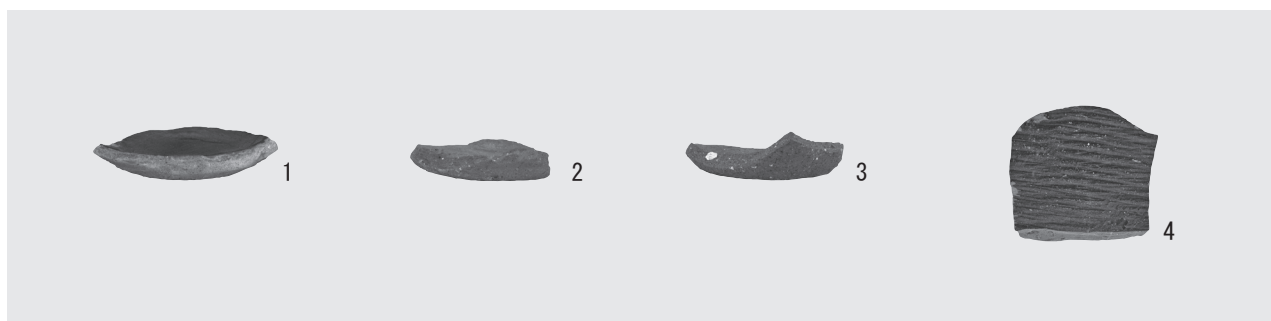


3-1 SI01 出土遺物 (1)

图版 4



4-1 SI01 出土遺物 (2)



4-2 SD01 出土遺物



4-3 土坑出土遺物



4-4 遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	とうまえはらいせき (だい27ちてんだい2じ)							
書名	東前原遺跡 (第27地点第2次)							
副書名	東前第二区画道路6-35号外1路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第121集							
編集者名	根田 洋平							
著者名	根田 洋平・新垣 清貴							
編集機関	株式会社 東京航業研究所							
所在地	〒350-0855 埼玉県川越市大字伊佐沼28番1 ☎049-229-5771							
発行年月日	2020 (令和2) 年7月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
とうまえはらいせき 東前原遺跡	みとしとうまえちょう 水戸市東前町 1072番3他	08201	259	36° 20' 19"	140° 31' 39"	2020.2.20 ～ 2020.3.11	122 m ²	土地区画整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東前原遺跡 (第27地点 第2次)	集落跡	縄文時代 平安時代	竪穴建物跡, 溝跡, 土坑, 小穴		縄文土器, 土師器, 須恵器, 石器		縄文時代および平安時代の遺構・ 遺物を検出した。阿玉台Ⅱ式土器の 深鉢や内面黒色処理が施された土師 器, 木葉下窯跡群産の須恵器などが 出土している。本遺跡が立地する台 地上における集落遺跡の, 既往の調 査成果を補足する良好な資料を得る ことができた。	

項目	遺物の取り扱い
水洗い	・すべて行った。
注記	・注記マシンと手書きによる。 例) ミ259-27-2次-2層-1
接合	・接合に至る遺物については接合し, 補強材で適宜補強した。
実測	・遺物実測図は報告書掲載分についてのみ作成した。
台帳	・遺物台帳, 図面台帳, 写真台帳があり, 検索が可能なように作成している。合計1冊(綴り)。
遺物保管方法	・出土遺物は, 遺物収納箱に納め内容を明記している。

水戸市埋蔵文化財調査報告 第121集

東前原遺跡

(第27地点第2次)

— 東前第二区画道路6-35号外1路線道路改良及び
流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

印刷 令和2年7月30日

発行 令和2年7月30日

編集 株式会社東京航業研究所

発行 水戸市教育委員会

印刷 関東図書株式会社

〒336-0021

埼玉県さいたま市南区別所3-1-10

TEL 048-862-2901